

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	学校教育健康管理事業		決算書頁	312
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	36 誰もが等しく学べるよう支援します			
所管部・課	教育推進部	教育保育課	作成者	課長 下内 卓夫

2. 事業の目的

学校教育にかかる内部管理事務及び保健活動、衛生環境の充実を図る。

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	33,921	45,844	△ 11,923	一般財源	33,921	45,844	△ 11,923
事業費	17,627	28,037	△ 10,410	国県支出金			
内 人 正・再任用職員	16,294	16,430	△ 136	地方債			
件 正・再任用職員		1,377	△ 1,377	特定財源(その他)			
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員	2	2					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	学校教育健康管理事業	細事業事業費(千円)	17,627
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携		
(2) R3年度の取組と成果	<p>主 ①学校保健安全に関する委託(医師会、歯科医師会、薬剤師会等との業務委託料)…14,419千円</p> <p>取 ②学校の環境整備に係る手数料…547千円</p> <p>組</p> <p>①学校保健安全に関する委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 心臓検診(11,350,000円):心臓疾患の早期発見を目的に、心音心電図検査等を行った。 学校環境衛生検査(970,000円):各校の飲料水水質検査・照度及び空気検査等、環境衛生等について検査を行った。 検診器具滅菌業務(255,750円):各校で実施する検診に用いる検診器具の滅菌消毒・回収等を行った。 オーディオメータ校正検査業務(602,800円):聴力検査で使用するオーディオメータの校正検査を行った。 学校歯科保健連絡協議会業務(215,739円):学校歯科保健関係者の連絡協議会を行った。 学校歯科教育業務(428,000円):学校歯科教育の充実を図った。 スポーツ医学指導業務(412,560円):スポーツドクターによる各学校への巡回指導および指導者向けの講習会を行った。 不要薬物等処理(184,085円):不要な薬物の適切な処理を行った。 <p>②以下の検査を行い校内の環境整備の向上に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校遊泳用プール水質検査(9,900円):プールの水質(総トリハロメタン)検査を行った。 ホルムアルデヒド教室環境検査(234,500円):ホルムアルデヒドの室内濃度について、検査を行った。 結核検診(26,310円):結核精密検査および川西養護学校高等部1年生対象のエックス線検査を行った。 ダニ・ダニアレレルゲン検査(157,000円):保健室寝具及びカーペット敷き教室のダニ・ダニアレレルゲン検査を行った。 二酸化窒素測定検査(110,500円):石油ストーブ等の燃焼器具を使用する教室の二酸化窒素濃度について検査を行った。 		

(取り組み例) スポーツ医学指導業務

●令和3年6月～9月に、スポーツドクターによる各学校への巡回指導を行った。



●令和4年1月19日(水) スポーツドクターによる指導者向けの運動部活動安全講習を実施した。

講師：兵庫県立加古川医療センター リハビリテーション科 部長 柳田 博美 氏

テーマ：「運動器のセルフケアと食育に関するリハ医からの提言」



5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価			左記(自己評価)の具体的説明
	有効性	効率性	
大きく向上した。			<ul style="list-style-type: none"> ・医師会等の各関係機関の専門的な知見や助言を仰ぎながら、学校園に対して、必要な検査及び指導を行い、学校保健活動の充実を図るとともに、衛生環境の整備を行った。 ・より安全な運動部活動運営を目指して、熱中症やスポーツ傷害の未然防止に努めるよう支援した。
向上した。			
前年度の水準に留まった。	○	○	
前年度の水準を下回った。			
事業の課題			後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、保健・医療機関を含めた地域社会が連携して、社会全体で児童生徒等の健康づくりに取り組んでいく必要がある。 ・今日的課題、健康課題等を学習し、実生活に生かせる研修等の機会を充実させる必要がある。 			<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>学校保健安全法に基づき、児童生徒等の健康の保持増進及び安全の確保が図られるよう、保健管理、安全管理に努めることができた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>今後も、医師会等の専門機関、学校、保護者との連携を密にしながら、それぞれの立場での役割を担い、児童生徒の健康づくりを推進する。また、より学校現場のニーズに即した健康診断や研修が実施できるよう、環境整備や関係機関との調整を進めていく。</p>

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校給食運営事業			決算書頁	326
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ				
施策	37 児童・生徒の健康を守ります				
所管部・課	教育推進部	就学・給食課	作成者	課長 志波 仁史	

2. 事業の目的

栄養バランスの取れた豊かな食事を提供し、身体的健康の増進、正しい食習慣の形成を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	451,255	445,971	5,284	一般財源	451,255	445,971	5,284
事業費	48,809	46,590	2,219	国庫支出金			
内 人 件 費	正・再任用職員	309,586	303,955	5,631	地方債		
	任期付・会計年度任用職員	75,753	78,299	△ 2,546	特定財源（その他）		
減価償却費	17,107	17,127	△ 20				
(参考) 正・再任用職員数(人)	38	37	1				
再任用職員							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業 1>	小学校給食運営事業	細事業事業費(千円)	48,809																																				
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	講座・フォーラム																																						
(2) R3年度の取組と成果	<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ①給食室内の施設設備の修繕を実施(川西小給食用昇降機修繕など)…5,841千円 ②通常の検便検査及びノロウイルス検便検査、給食室内のフードダクト清掃等を実施(手数料)…3,205千円 ③安全に給食を実施するため、厨房機器の更新を実施(備品購入費)…10,889千円 <p>●安全・安心でおいしい給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自校調理において、栄養バランスのとれた給食を年間平均181回実施した。 <p>完全給食実施食数(16小学校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食実施食数</td> <td>1,504,399食</td> <td>1,536,498食</td> <td>1,417,124食</td> <td>1,337,864食</td> <td>1,426,706食</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・週5日の完全米飯給食に合わせ、手づくりこだわった和食中心の献立を提供した。 ・「川西市立学校園アレルギー対応運用マニュアル」等に基づく適切な対応を図った。 ・献立表やすべての食材の生産地をホームページで公表した。 ・建物・設備の老朽化対策のための各改修・維持管理工事を行った。 <p>小学校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な施設設備整備</th> <th>学校名</th> <th>費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校給食用昇降機修繕</td> <td>川西小</td> <td>1,903千円</td> </tr> <tr> <td>給食配膳室修繕</td> <td>清和台南小、けやき原小</td> <td>1,008千円</td> </tr> <tr> <td>厨房グリスフィルター取替修繕</td> <td>北陵小</td> <td>427千円</td> </tr> <tr> <td>水栓取替修繕</td> <td>清和台南小</td> <td>151千円</td> </tr> <tr> <td>食器洗浄機更新</td> <td>清和台南小</td> <td>4,840千円</td> </tr> <tr> <td>冷蔵庫更新</td> <td>川西小、東谷小</td> <td>1,213千円</td> </tr> <tr> <td>ガス給湯器更新</td> <td>川西北小</td> <td>1,667千円</td> </tr> </tbody> </table>			年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	給食実施食数	1,504,399食	1,536,498食	1,417,124食	1,337,864食	1,426,706食	主な施設設備整備	学校名	費用	学校給食用昇降機修繕	川西小	1,903千円	給食配膳室修繕	清和台南小、けやき原小	1,008千円	厨房グリスフィルター取替修繕	北陵小	427千円	水栓取替修繕	清和台南小	151千円	食器洗浄機更新	清和台南小	4,840千円	冷蔵庫更新	川西小、東谷小	1,213千円	ガス給湯器更新	川西北小	1,667千円
年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																																		
給食実施食数	1,504,399食	1,536,498食	1,417,124食	1,337,864食	1,426,706食																																		
主な施設設備整備	学校名	費用																																					
学校給食用昇降機修繕	川西小	1,903千円																																					
給食配膳室修繕	清和台南小、けやき原小	1,008千円																																					
厨房グリスフィルター取替修繕	北陵小	427千円																																					
水栓取替修繕	清和台南小	151千円																																					
食器洗浄機更新	清和台南小	4,840千円																																					
冷蔵庫更新	川西小、東谷小	1,213千円																																					
ガス給湯器更新	川西北小	1,667千円																																					
																																							
	北陵小学校 厨房グリスフィルター取替修繕	清和台南小学校 水栓取替修繕																																					

●食育の推進

- ・旬の食材を中心に、日本の食文化を知ることができる給食を提供した。
また、おむすびの日を設け、防災意識の啓発・向上を図った。
- ・栄養教諭や調理師が喫食状況を把握し、献立や調理方法を改善した。
- ・教育の一環として子どもたちが自ら“食”を選択する力を、育成した。

●地産地消の推進

- ・可能な限り県内産、市内産食材を確保し、地域食材を活用した。
- ・JA兵庫六甲、産業振興課、青果店と連携し、市の特産物や地元の食材を使用した。

●家庭や地域との連携・交流の促進

- ・「給食だより」などを通じ、家庭との連携を図った。

●新型コロナウイルス感染症による各対応

- ・学級閉鎖の多発により食材のキャンセルが発生したが、給食物資関連業者と調整をしながら、食品ロスが最小限となるよう対応を行った。
- ・緊急事態宣言期間内に出席停止となった児童に対して、出席停止日の学校給食費を免除した。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1" data-bbox="145 1312 687 1597"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="145 1653 699 1798">●事業の課題 ・安全・安心な学校給食の継続的な実施に向け、衛生面・安全面でのリスクを回避するため、老朽化した施設・設備の修繕または更新が必要である。</p>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<p data-bbox="722 1653 1394 1827">【後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性】 【後期基本計画を振り返っての総括】 栄養バランスや食物アレルギー対応に配慮した、米飯による完全給食を実施し、食育の推進や地域食材の活用などにより、食生活の改善や望ましい食習慣形成の推進に努めた。</p> <p data-bbox="722 1917 1394 2123">【令和4年度以降の方向性】 ・国や県の指針に基づきながら、安全・安心な学校給食を安定的に提供するため、安全確保を図り、今後も学校給食衛生管理基準に適合した環境への改善・整備に努める。 ・引き続き、地産地消の取り組みを進め、自校調理方式で週5日の完全米飯給食を実施する。</p>
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	児童健康管理事業		決算書頁	328
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	37 児童・生徒の健康を守ります			
所管部・課	教育推進部	教育保育課	作成者	課長 下内 卓夫

2. 事業の目的

市立小学校の児童の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努める。

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	40,322	40,221	101	一般財源	40,322	40,221	101
事業費	31,574	31,403	171	国県支出金			
内 人 正・再任用職員	8,147	8,215	△ 68	地方債			
件 正・再任用職員	601	603	△ 2	特定財源(その他)			
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員	1	1					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	児童健康管理事業	細事業事業費(千円)	31,574																																																																												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携																																																																														
(2) R3年度の取組と成果	<p>主 ①学校医の配置(嘱託員報酬)…22,086千円</p> <p>取 ②市立小学校児童の日本スポーツ振興センターへ加入(その他負担金)…7,112千円</p> <p>組</p> <p>●学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、児童の健康及び安全管理に関し、健康及び安全管理に努めた。</p> <p>・定期健診 内科、眼科、耳鼻科、歯科検診を実施した。(4月～6月)</p> <p>・検査 尿検査の実施。(5～6月)</p> <p>・事故対策 日本スポーツ振興センターの災害共済に加入。 (日本スポーツ振興センター災害共済給付申請件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>骨折</th> <th>捻挫</th> <th>脱臼</th> <th>挫傷・打撲</th> <th>熱傷・火傷</th> <th>凍傷</th> <th>擦過傷</th> <th>熱傷・火傷</th> <th>歯牙破損</th> <th>その他</th> <th>疾病</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>119</td> <td>126</td> <td>18</td> <td>124</td> <td>10</td> <td>45</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>24</td> <td>497</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>111</td> <td>79</td> <td>14</td> <td>106</td> <td>9</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>18</td> <td>388</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>107</td> <td>97</td> <td>14</td> <td>132</td> <td>2</td> <td>29</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>18</td> <td>425</td> </tr> </tbody> </table> <p>・定期健康診断の検診項目</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 身長、体重</td> <td>(2) 栄養状態</td> </tr> <tr> <td>(3) 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無</td> <td>(4) 四肢の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>(5) 視力及び聴力</td> <td>(6) 眼の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>(7) 耳鼻咽喉疾患及び皮膚疾患の有無</td> <td>(8) 歯及び口腔の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>(9) 結核の有無</td> <td>(10) 心臓の疾病及び異常の有無</td> </tr> <tr> <td>(11) 尿腎臓疾患の有無</td> <td>(12) その他の疾病及び異常の有無</td> </tr> </table>				骨折	捻挫	脱臼	挫傷・打撲	熱傷・火傷	凍傷	擦過傷	熱傷・火傷	歯牙破損	その他	疾病	計	R1	119	126	18	124	10	45	6	4	1	5	7	2	6	0	24	497	R2	111	79	14	106	9	25	5	2	0	7	5	0	7	0	18	388	R3	107	97	14	132	2	29	5	2	0	4	2	2	11	0	18	425	(1) 身長、体重	(2) 栄養状態	(3) 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無	(4) 四肢の疾病及び異常の有無	(5) 視力及び聴力	(6) 眼の疾病及び異常の有無	(7) 耳鼻咽喉疾患及び皮膚疾患の有無	(8) 歯及び口腔の疾病及び異常の有無	(9) 結核の有無	(10) 心臓の疾病及び異常の有無	(11) 尿腎臓疾患の有無	(12) その他の疾病及び異常の有無
	骨折	捻挫	脱臼	挫傷・打撲	熱傷・火傷	凍傷	擦過傷	熱傷・火傷	歯牙破損	その他	疾病	計																																																																			
R1	119	126	18	124	10	45	6	4	1	5	7	2	6	0	24	497																																																															
R2	111	79	14	106	9	25	5	2	0	7	5	0	7	0	18	388																																																															
R3	107	97	14	132	2	29	5	2	0	4	2	2	11	0	18	425																																																															
(1) 身長、体重	(2) 栄養状態																																																																														
(3) 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無	(4) 四肢の疾病及び異常の有無																																																																														
(5) 視力及び聴力	(6) 眼の疾病及び異常の有無																																																																														
(7) 耳鼻咽喉疾患及び皮膚疾患の有無	(8) 歯及び口腔の疾病及び異常の有無																																																																														
(9) 結核の有無	(10) 心臓の疾病及び異常の有無																																																																														
(11) 尿腎臓疾患の有無	(12) その他の疾病及び異常の有無																																																																														

- ・各校において、学校保健の問題に対し、学校医からの助言や学校保健委員会を通じての啓発などを行った。
- ・学習指導要領に基づく保健学習と健康実態に応じた保健指導を中心に保健教育を進めた。
- ・発達段階に応じた保健教育を実施し生涯にわたって主体的に健康づくりができるよう指導を進めた。

項目	学年	対象者数	有所見者数	有所見者率 (%)	治療勧告数	1月未満での再発回数	受診率 (%)	昨年度受診率 (%)
内科健診	1年	1208	547	45.3%				
	2年	1255	601	47.9%				
	3年	1246	638	51.2%				
	4年	1319	697	52.8%				
	5年	1342	723	53.9%				
	6年	1283	710	55.3%				
	全体	7653	3916	51.2%				
尿検査	1年	1208	9	0.7%				
	2年	1255	15	1.2%				
	3年	1246	8	0.6%				
	4年	1319	16	1.2%				
	5年	1342	24	1.8%				
	6年	1283	44	3.4%				
	全体	7653	116	1.5%				
眼科健診	1年	1208	32	2.6%	91	61	67.0%	60.6%
	4年	1319	66	4.2%				
	全体	2527	88	3.5%				
耳鼻科健診	1年	1208	153	12.7%	300	202	67.3%	65.8%
	4年	1319	141	10.7%				
	全体	2527	294	11.6%				
歯科健診 (未処置歯のある人)	1年	1208	191	15.8%	2531	1279	50.5%	36.6%
	2年	1255	198	15.8%				
	3年	1246	208	16.7%				
	4年	1319	224	17.0%				
	5年	1342	232	17.3%				
	6年	1283	142	11.1%				
	全体	7653	1195	15.6%				

※歯科健診の治療勧告数は、未処置歯以外の治療勧告も含みます。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、例年以上に各校医および医師会や歯科医師会との連携を密にし、感染対策を講じながら全校で定期健康診断を実施することができた。 ・引き続き、歯科検診記録員の配置等を行い、健康診断がスムーズに実施できるようにした。 ・災害共済給付制度について、保護者へ周知し、保護者が安心して制度を利用できるように努めた。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
事業の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告に基づく受診率が大幅に下がった前年度に比べて、受診率が上昇しているが、新型コロナウイルス感染症流行前の水準には至っていない。 ・健康診断結果および学校環境衛生検査等の結果を教育活動に活かしていく必要がある。 ・児童の発達段階に応じた健康教育に取り組む必要がある。 	後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性 <p>【後期基本計画を振り返っての総括】 学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、児童の健康及び安全管理に努めることができた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】 健診結果や学校環境衛生検査結果を教育活動に活用するとともに、感染症予防や基本的生活習慣の重要性を啓発し、児童の心身の健康についての関心を高めるよう促していく。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校給食運営事業	決算書頁	334
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ		
施策	37 児童・生徒の健康を守ります		
所管部・課	教育推進部 就学・給食課	作成者	課長 志波 仁史

2. 事業の目的

ミルク給食によりカルシウムを補給するとともに、完全給食の実施に向けた検討を進める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	8,551	24,971	△ 16,420	一般財源	8,551	24,971	△ 16,420
事業費	4,667	7,115	△ 2,448	国県支出金			
内 人 正・再任用職員		16,430	△ 16,430	地方債			
件 任期付職員・会計士				特定財源(その他)			
費 度任用職員	3,884	1,426	2,458				
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員		2	△ 2				
用職員数(人) 再任用職員							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校ミルク給食運営事業	細事業事業費(千円)	151																								
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																											
(2) R3年度の取組と成果	<p>①学校教育活動の中で牛乳を摂取することにより、成長期において重要な栄養であるにも関わらず日常的に不足しがちなカルシウムを補填できるよう実施した。</p> <p>●ミルク給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校7校の生徒を対象にミルク給食を提供した。 ・学校教育活動の中で牛乳を摂取することにより、成長期において重要な栄養であるにも関わらず日常的に不足しがちなカルシウムを補填できるよう実施した。 <p>ミルク給食実施本数等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒数(A)</td> <td>4,123人</td> <td>3,901人</td> <td>3,861人</td> <td>3,781人</td> <td>3,862人</td> </tr> <tr> <td>年間実施本数(B)</td> <td>381,704本</td> <td>368,778本</td> <td>343,209本</td> <td>295,786本</td> <td>301,478本</td> </tr> <tr> <td>1人あたり年間摂取本数(C)=(B)/(A)</td> <td>93本</td> <td>95本</td> <td>89本</td> <td>78本</td> <td>78本</td> </tr> </tbody> </table>			年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	生徒数(A)	4,123人	3,901人	3,861人	3,781人	3,862人	年間実施本数(B)	381,704本	368,778本	343,209本	295,786本	301,478本	1人あたり年間摂取本数(C)=(B)/(A)	93本	95本	89本	78本	78本
年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																						
生徒数(A)	4,123人	3,901人	3,861人	3,781人	3,862人																						
年間実施本数(B)	381,704本	368,778本	343,209本	295,786本	301,478本																						
1人あたり年間摂取本数(C)=(B)/(A)	93本	95本	89本	78本	78本																						

<細事業2>	中学校給食実施準備事業	細事業事業費（千円）	4,516
(1) 参画と協働の主な手法（実績）			
(2) R3年度の取組と成果			
主 な 取 組	<p>① P F I 手法により中学校完全給食を実施するための整備・運営事業モニタリング業務…4,499千円</p> <p>● 中学校7校の完全給食実施に向けての整備・運営 P F I に係るモニタリング業務委託 (契約事業者：(株)長大)</p> <p>・ 川西市中学校給食センター整備・運営 P F I 事業モニタリング業務委託 契約期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日 契約金額 4,499,000円</p> <p>● 給食センター本体、配送校7校の建設工事開始</p> <p>● 中学校食物アレルギー対応方針決定</p> <p>● 献立年間計画策定</p> <p>● 食物アレルギー及び衛生マニュアルを作成し中学校へ説明</p> <p>● 配膳喫食マニュアル、異物混入等時対応マニュアル作成</p>		
			

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価		左記（自己評価）の具体的説明															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> ・ ミルク給食を実施し、日常的に不足しがちなカルシウムを補填し、生徒の身体的健康の増進につなげた。 ・ 完全給食実施に向けての整備・運営事業を P F I 手法により、設計・建設業務のほか、実施準備を進めた。 ・ 地中障害の影響で引渡しが遅れたが、令和4年9月からの中学校給食開始に影響しないよう準備を進めた。
	有効性	効率性															
大きく向上した。																	
向上した。																	
前年度の水準に留まった。	○	○															
前年度の水準を下回った。																	
事業の課題		後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性															
<ul style="list-style-type: none"> ・ 川西市の中学生に小学校及び特別支援学校同様に質の高い給食を提供するため、運営準備を着実に進める必要がある。 		<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>ミルク給食を実施し、日常的に不足しがちなカルシウムを補填し、生徒の身体的健康の増進につなげてきた。また、川西市の中学生に小学校及び特別支援学校同様に質の高い給食を提供するため、運営準備を着実に進めることができた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>センター方式の利点を活かし、中学校給食における食物アレルギー対応については、特定原材料7品目に加え、特定原材料に準ずる21品目も含めて対応できるよう準備を進める。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生徒健康管理事業		決算書頁	334
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	37 児童・生徒の健康を守ります			
所管部・課	教育推進部	教育保育課	作成者	課長 下内 卓夫

2. 事業の目的

市立中学校の生徒の健康及び安全管理に関し、健康の保持増進に努める。

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	15,459	15,197	262	一般財源	15,459	15,197	262
事業費	15,357	15,085	272	国県支出金			
内訳				地方債			
人件費				特定財源(その他)			
正・再任用職員							
任期付・会計年度任用職員	102	112	△ 10				
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	生徒健康管理事業	細事業事業費(千円)	15,357																																																																				
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携																																																																						
(2) R3年度の取組と成果	<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校医の配置(嘱託員報酬)…10,790千円 ②市立中学校生徒の日本スポーツ振興センターへの加入(その他負担金)…3,574千円 <p>●学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、生徒の健康及び安全管理に関し、健康及び安全管理に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期健診 内科、眼科、耳鼻科、歯科検診を実施した。(4月～6月) ・検査 尿検査の実施。(5～6月) ・事故対策 日本スポーツ振興センターの災害共済に加入。 (日本スポーツ振興センター災害共済給付申請件数) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>骨折</th> <th>捻挫</th> <th>脱臼</th> <th>挫傷・打撲</th> <th>頭部外傷・脳挫</th> <th>挫創</th> <th>切創</th> <th>刺創</th> <th>割創</th> <th>裂創</th> <th>擦過傷</th> <th>熱傷・火傷</th> <th>歯牙破損</th> <th>その他の外傷</th> <th>疾病</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>146</td> <td>107</td> <td>12</td> <td>103</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>41</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>82</td> <td>80</td> <td>5</td> <td>85</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>35</td> <td>299</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>116</td> <td>93</td> <td>10</td> <td>75</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>27</td> <td>353</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断の検診項目 <ul style="list-style-type: none"> (1) 身長、体重 (2) 栄養状態 (3) 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無 (4) 四肢の疾病及び異常の有無 (5) 視力及び聴力 (6) 眼の疾病及び異常の有無 (7) 耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無 (8) 歯及び口腔の疾病及び異常の有無 (9) 結核の有無 (10) 心臓の疾病及び異常の有無 (11) 尿腎臓疾患の有無 (12) その他の疾病及び異常の有無 				骨折	捻挫	脱臼	挫傷・打撲	頭部外傷・脳挫	挫創	切創	刺創	割創	裂創	擦過傷	熱傷・火傷	歯牙破損	その他の外傷	疾病	計	R1	146	107	12	103	13	7	4	1	0	2	1	0	1	0	41	438	R2	82	80	5	85	5	3	0	2	0	0	2	0	0	0	35	299	R3	116	93	10	75	12	8	4	1	0	1	2	0	4	0	27	353
	骨折	捻挫	脱臼	挫傷・打撲	頭部外傷・脳挫	挫創	切創	刺創	割創	裂創	擦過傷	熱傷・火傷	歯牙破損	その他の外傷	疾病	計																																																							
R1	146	107	12	103	13	7	4	1	0	2	1	0	1	0	41	438																																																							
R2	82	80	5	85	5	3	0	2	0	0	2	0	0	0	35	299																																																							
R3	116	93	10	75	12	8	4	1	0	1	2	0	4	0	27	353																																																							

- ・各校において、学校保健の問題に対し、学校医からの助言や学校保健委員会を通じての啓発などを行った。
- ・学習指導要領に基づく保健学習と健康実態に応じた保健指導を中心に保健教育を進めた。
- ・発達段階に応じた保健教育を実施し生涯にわたって主体的に健康づくりができるよう指導を進めた。
- ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育及び性教育に関しては学習指導要領に則り、生徒の発達段階に沿った内容で実施した。

項目	学年	対象者数	有所見者数	有所見者率 (%)	治療勧告数	1月半までの来院受診数	受診率 (%)	前年度受診率 (%)
内科健診	1年	1330	835	62.8%				
	2年	1244	831	66.8%				
	3年	1303	826	63.4%				
	全体	3877	2492	64.3%				
尿検査	1年	1330	52	3.9%				
	2年	1244	48	3.9%				
	3年	1303	37	2.8%				
	全体	3877	137	3.5%				
眼科健診	1年のみ	1330	105	7.9%	106	59	55.7%	56.3%
耳鼻科健診	1年のみ	1330	137	10.3%	142	80	56.3%	44.8%
歯科健診 (未処置歯のある人)	1年	1330	154	11.6%				
	2年	1244	214	17.2%				
	3年	1303	210	16.1%				
	全体	3877	578	14.9%				
					1511	492	32.6%	20.1%

※歯科健診の治療勧告数は、未処置歯以外の治療勧告も含めます。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価			左記（自己評価）の具体的説明	
	有効性	効率性		
大きく向上した。			<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、例年以上に各校医および医師会や歯科医師会との連携を密にし、感染対策を講じながら全校で定期健康診断を実施することができた。 ・引き続き、歯科検診記録員の配置等を行い、健康診断がスムーズに実施できるようにした。 ・災害共済給付制度について、保護者へ周知し、保護者が安心して制度を利用できるように努めた。 	
向上した。				
前年度の水準に留まった。	○	○		
前年度の水準を下回った。				
事業の課題			後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告に基づく受診率が大幅に下がった前年度に比べて、受診率が上昇しているが、小学校の受診率に比べると低い水準にある。 ・健康診断結果および学校環境衛生検査等の結果を教育活動に活かしていく必要がある。 ・生徒の発達段階に応じた健康教育に取り組む必要がある。 			<p>【後期基本計画を振り返っての総括】 学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、生徒の健康及び安全管理に努めることができた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】 健診結果や学校環境衛生検査結果を教育活動に活用するとともに、生徒自身が健康であることの大切さに気付き、生活習慣を見直し、改善していくなど自己の体調や健康を管理する力を育成する。</p>	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校給食運営事業		決算書頁	342
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	37 児童・生徒の健康を守ります			
所管部・課	教育推進部	就学・給食課	作成者	課長 志波 仁史

2. 事業の目的


栄養バランスの取れた豊かな食事を提供し、身体的健康の増進、正しい食習慣の形成を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	14,808	14,963	△ 155	一般財源	14,808	14,963	△ 155
事業費	1,280	1,362	△ 82	国県支出金			
内 人 件 費	正・再任用職員	12,791	12,956	△ 165	地方債		
	任期付・会計年度任用職員	663	571	92	特定財源(その他)		
減価償却費	74	74					
(参考) 正・再任用職員	1	1					
用職員数(人)	再任用職員	1	1				

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	特別支援学校給食運営事業	細事業事業費(千円)	1,280																		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																					
(2) R3年度の取組と成果																					
主な取組	<p>① 安全に給食を実施するために、厨房機器の更新等を実施(フードプロセッサ一部品更新など)…60千円</p> <p>② 給食室内の老朽化対策のため、設備等の修繕を実施(給食室扉修繕など)…322千円</p> <p>●安全・安心でおいしい給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自校調理において、栄養バランスのとれた給食を年間176回実施した。 <p>完全給食実施食数(川西養護学校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食実施食数</td> <td>10,893食</td> <td>12,087食</td> <td>10,793食</td> <td>10,997食</td> <td>11,740食</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・週5日の完全米飯給食に合わせ、手づくりこだわった和食中心の献立を提供した。 ・「川西市立学校園アレルギー対応運用マニュアル」等に基づく適切な対応を図った。 ・すべての食材の生産地をホームページで公表した。 ・通常の検便検査に加え、冬期にノロウイルス検便検査を行った。 ・安全に給食を実施するために、必要な施設修繕や設備の保守点検、厨房機器の更新等を実施した。 <p>川西養護学校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な施設設備整備</th> <th>費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食室照明器具修繕</td> <td>319千円</td> </tr> <tr> <td>給食室扉修繕</td> <td>14千円</td> </tr> </tbody> </table>			年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	給食実施食数	10,893食	12,087食	10,793食	10,997食	11,740食	主な施設設備整備	費用	給食室照明器具修繕	319千円	給食室扉修繕	14千円
年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																
給食実施食数	10,893食	12,087食	10,793食	10,997食	11,740食																
主な施設設備整備	費用																				
給食室照明器具修繕	319千円																				
給食室扉修繕	14千円																				
	 <p>川西養護学校 照明器具修繕(完了後)</p>																				

・きざみ食調理など、児童生徒の状況に応じた給食を提供した。



きざみ食



ペースト食

●食育の推進

- ・旬の食材を中心に、日本の食文化を知ることができる給食を提供した。
また、おむすびの日を設け、防災意識の啓発・向上を図った。
- ・栄養教諭や調理師が喫食状況を把握し、献立や調理方法を改善した。
- ・教育の一環として子どもたちが自ら“食”を選択する力を、育成した。

●地産地消の推進

- ・可能な限り県内産、市内産食材を確保し、地域食材を活用した。
- ・JA兵庫六甲、産業振興課、青果店と連携し、市の特産物や地元の食材を使用した。

●家庭や地域との連携・交流の促進

- ・「給食だより」などを通じ、家庭との連携を図った。

●新型コロナウイルス感染症による各対応

- ・学級閉鎖の多発により食材のキャンセルが発生したが、給食物資関連業者と調整をしながら、食品ロスが最小限となるよう対応を行った。
- ・緊急事態宣言期間内に出席停止となった児童生徒に対して、出席停止日の学校給食費を免除した。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価			左記（自己評価）の具体的説明
	有効性	効率性	
大きく向上した。			<ul style="list-style-type: none"> ・週5回完全米飯給食を実施し、栄養バランスのとれた食事を提供し、身体的健康の増進、正しい食習慣の形成につなげた。 ・きざみ食調理をするなど、児童生徒の状況に応じた給食を提供した。
向上した。			
前年度の水準に留まった。	○	○	
前年度の水準を下回った。			
事業の課題			後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の学校給食実施のために、衛生面・安全面でのリスクを回避するため、老朽化した施設・設備を修繕または更新が必要である。 			<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>安全・安心の学校給食を安定的に進めるため、より一層の安全確保に向け、「川西市立学校園アレルギー対応マニュアル」等の徹底を図っている。</p> <p>また、経年劣化に伴う施設及び機器の修繕を行うことができた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>引き続き、地産地消の取り組みを進め、自校調理方式で週5日の完全米飯給食を実施する。</p>

- ・川西市歯科医師会、川西市医師会、学校担当医、養護教諭、歯科記録員等と連携を取り合い、進めることができた。
- ・健康診断の結果をもとに事後措置を行うと共に、保健指導・健康相談を行い、保健管理の徹底を図った。
- ・学校保健の問題に対し、学校医からの助言や学校保健委員会を通じての啓発などを行った。
- ・保護者と連携し、検診結果をもとに児童生徒の主治医とも連携し保健指導を行った。
- ・学習指導要領に基づく保健学習と健康実態に応じた保健指導を中心に保健教育を進めた。
- ・個々の障がいの特性や発達段階に応じた保健教育を実施し生涯にわたって主体的に健康づくりができるよう指導を進めた。
- ・健康診断とは別に、定期健康診断のデータを参考にし、整形外科の診察を受け、リハビリ等を行った。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価		左記（自己評価）の具体的説明	
	有効性	効率性	
大きく向上した。			<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、例年以上に各校医および医師会や歯科医師会との連携を密にし、感染対策を講じながら全校で定期健康診断を実施することができた。 ・引き続き、歯科検診記録員の配置等を行い、健康診断がスムーズに実施できるようにした。 ・災害共済給付制度について、保護者へ周知し、保護者が安心して制度を利用できるように努めた。
向上した。			
前年度の水準に留まった。	○	○	
前年度の水準を下回った。			
事業の課題		後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果および学校環境衛生検査等の結果を教育活動に活かしていく必要がある。 ・個々の実態や障がいの特性に応じて、健康教育に取り組む必要がある。 		<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>学校保健安全法第13条及び同法施行規則第3条に基づき、児童生徒の健康及び安全管理に努めることができた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>健診結果や学校環境衛生検査結果を教育活動に活用するとともに、保護者や各関係機関と協力しながら、学校生活や日常生活において、児童生徒の生活の質が高まるように支援していく。</p>	

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校運営事業		決算書頁	320
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部 教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹	

2. 事業の目的

小学校の児童に良好で適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	800,472	999,509	△ 199,037	一般財源	771,912	971,621	△ 199,709
事業費	375,982	547,308	△ 171,326	国県支出金	26,806	27,286	△ 480
内 人 件 費	24,441	24,645	△ 204	地方債			
内 正・再任用職員 費				特定財源(その他)	1,754	602	1,152
減価償却費	400,049	427,556	△ 27,507				
(参考) 正・再任用職員 用職員数(人)	3	3					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校運営事業	細事業事業費(千円)	375,982
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) R3年度の取組と成果			
主な取組	市立小学校16校の運営・安全管理や施設の維持管理(業務委託契約)…104,607千円		
<p>児童が安全で、安心して過ごせるように定期的な保守点検を実施するとともに、教材用品の購入や備品の修繕を行った。新型コロナウイルス感染症対策による学習保障に向けて、保健衛生用品等の整備、密を避けるために複数台の機器等の設置、児童の学びを保障するための教材の購入などを行った。</p> <p>【戦略1】登下校時の安全を確保するため、校門を通過する際にアプリやメールで保護者等に通知する見守りサービスを導入した。</p>			
児童数、学級数の推移		※各年5月1日現在(単位:人)	
	R1年度	R2年度	R3年度
児童数	7,920	7,831	7,638
学級数	322	326	319
事業費の推移		(単位:千円)	
	R1年度	R2年度	R3年度
事業費	511,077	547,308	375,982

事業費の内訳

(単位：千円)

費目	金額	備考
消耗品費	50,771	管理用、教材用
光熱水費	148,438	電気 (62,080)、ガス (39,898)、水道 (46,460)
設備保守管理委託料	16,090	空調設備保守、自動開閉装置保守、消防設備保守等
業務委託料	28,799	夜間、機械警備、ゴミ収集運搬・処分、排水管清掃、害虫駆除等
PFI事業委託料	59,718	空調設備整備PFI
使用料及び賃貸料	21,728	乾式複写機使用料等
その他	50,438	通信運搬費等、新型コロナウイルス感染症対策に係る国庫補助金事業等

光熱水費の推移

(単位：千円)

	R1年度	R2年度	R3年度
電気	53,941	54,457	62,080
ガス	30,352	33,009	39,898
水道	57,727	38,469	46,460

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて「感染症対策等の学校活動継続支援事業」などを活用し、教育環境を整えた。 児童が校内において各自で検温できるよう全校全クラスに非接触型検温器を設置した。 登下校時の校門通過情報を通知するICTを活用した見守りサービスを導入した。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策と児童の学びを保障するため、引き続き、必要な用品等の購入や備品の修繕を行っていく必要がある。 子ども達が安全に過ごせる教育環境を整えるため、効率的かつ効果的に事業を実施していく必要がある。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動における器具修繕など学校要望に応じて随時対応した。 また、コロナ禍において交付金などを活用し、環境整備を進めた。 <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>学校運営や設備の更新、修繕などは多数の施設で共通の事業がある。学校だけの視点にとらわれず、保育所や幼稚園等、学校園所全体で中長期的な観点から業務を見直し、より良い教育環境の確保をめざして検討を進めていく。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校備品整備事業		決算書頁	322
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹

2. 事業の目的

小学校における教材備品・管理備品の適切な整備を行い、適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	7,813	9,679	△ 1,866	一般財源	7,544	7,067	477
事業費	7,813	9,679	△ 1,866	国県支出金	269	2,612	△ 2,343
内訳				地方債			
人件費				特定財源(その他)			
正・再任用職員							
件(任期付・会計年度当用職員)							
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員							
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校備品整備事業	細事業事業費(千円)	7,813	
(1) 参画と協働の主な手法(実績)				
(2) R3年度の取組と成果				
主な取組	<p>① 学校運営上必要な教材・管理備品の購入(備品購入費)…7,813千円</p> <p>② 観察、実験等の教育設備の充実に必要な備品の整備(上記の内、理科備品の購入費)…521千円</p>			
1. 教材・管理備品の購入	<p>各学校のニーズに応じた教材備品、管理備品を購入し児童の学びの質向上につながるよう教育環境の充実を図った。</p>			
備品購入費の推移	(単位:千円)			
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
9,430	10,174	10,313	9,679	7,813
備品購入数の推移	(単位:個)			
○教材備品	(単位:個)			
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
169	140	90	57	80
○管理備品	(単位:個)			
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
69	54	143	89	96
令和3年度に購入した主な備品	<p>(教材備品) ・折りたたみキッズ鉄棒</p> <p>(管理備品) ・自動紙折り機</p> <p>・教育用オルガン 等</p> <p>・ホワイトボード 等</p>			

2. 理科教育設備の整備

学校教育における理科教育の振興を図るため、観察や実験の器具等の備品を購入した。

上記の備品購入費・教材備品の内、
理科備品（R3年度）（単位：千円）

学校名	購入数	購入金額
川西北	12	278
清和台	8	243
合計	20	521

（理科備品）

- ・解剖顕微鏡
- ・デジタル気体測定器

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価			左記（自己評価）の具体的説明
	有効性	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の老朽化した備品を計画的に更新し、備品の適正管理に努めた。また、理科教育設備整備等補助金を活用し、観察や実験の器具等の備品を購入して理科教育設備の充実を図った。
大きく向上した。			
向上した。			
前年度の水準に留まった。	○	○	
前年度の水準を下回った。			
事業の課題			後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・備品が老朽化する中においては、管理状況を的確に把握するとともに、計画的に更新していく必要がある。 ・備品については、各学校で同様の物品を購入していることから、業務を見直し、事務の効率化や経費の削減につなげる必要がある。 			<p>【後期基本計画を振り返っての総括】 補助金等も有効に活用しながら、各学校の備品を計画的に更新し、学習環境の充実を図った。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】 備品等を一括で購入し、昨年度と同様各学校のニーズに即した環境の整備に向けて教材備品や管理備品を継続的に整えていく必要がある。また、備品等を一括で購入し、効率化を図るとともに、他市町との共同入札による効果的な手法についても併せて検討する。</p>

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校図書整備事業	決算書頁	322
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ		
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します		
所管部・課	教育推進部 教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹

2. 事業の目的

児童の健全な教養を育成するとともに学校の教育課程の展開に寄与する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	6,052	5,157	895	一般財源	6,052	5,157	895
事業費	6,052	5,157	895	国県支出金			
内訳				地方債			
人件費				特定財源(その他)			
正・再任用職員							
件別(任期付・会計年度当用職員)							
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員							
用職員数(人)							
再任用職員							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校図書整備事業	細事業事業費(千円)	6,052		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)					
(2) R3年度の取組と成果					
主な取組	① 生徒の読書活動の推進や言語力を育むための学校図書館の蔵書整備(図書購入費)… 5,762千円 ② 蔵書数増加への対応のための書架整備の実施(書架整備費用)… 290千円				
【図書購入費の推移】	(千円)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
購入費	9,409	7,041	6,990	4,977	5,762
【蔵書数の推移】	(冊)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
冊数	176,145	182,140	184,990	187,175	188,422
【書架の整備状況】	(上段:校 下段:千円)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
学校数	3	5	3	2	3
決算額	348	451	267	180	290
【図書標準に達した学校数】	(校)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
学校数	3	4	7	8	8

【各小学校の状況】

学校名	児童数	図書標準(冊)	蔵書数(冊)	図書標準に 対する達成率	貸出数(冊)	1人あたりの 貸出数(冊)
	R3.5.1時点			R4.2.1時点		
久代	503	10,960	9,724	88.7%	14,625	29
加茂	501	11,360	10,945	96.3%	12,614	25
川西	556	11,360	11,287	99.4%	12,647	23
桜が丘	328	9,560	9,063	94.8%	7,885	24
川西北	468	10,560	10,217	96.8%	9,255	20
明峰	784	12,160	32,485	267.1%	18,772	24
多田	483	10,560	11,490	108.8%	8,813	18
多田東	626	11,560	12,130	104.9%	10,430	17
緑台	277	8,360	11,555	138.2%	8,501	31
陽明	297	8,360	9,008	107.8%	6,926	23
清和台	241	7,960	8,638	108.5%	5,093	21
清和台南	282	8,760	9,347	106.7%	6,243	22
けやき坂	679	12,160	10,042	82.6%	13,370	20
東谷	615	11,760	12,098	102.9%	9,550	16
牧の台	523	11,360	9,817	86.4%	10,753	21
北陵	475	10,760	10,576	98.3%	10,624	22
小学校全体	7,638	167,560	188,422	112.5%	166,101	22

【購入する図書の選定方法（事例）】

- ・委員会活動の一環として、図書委員会が人気のある分野を中心に選定している。
- ・児童や教職員にアンケートを行い、希望数を参考に図書を選定している。
- ・児童がよく読む図書や学習に適した図書を中心に、学校司書が選定している。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> ・国が定める学校図書館図書標準の達成率向上をめざし、図書の購入を進めるとともに、配架に必要な書架の整備を併せて行うことにより、全体の蔵書数は増加している。 ・蔵書数は増加しているが、学校図書館図書標準を達成している学校数は横ばいである。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用状況や図書の貸出状況等、各校の実態を把握した上で、図書整備を進める必要がある。 ・蔵書数の拡大だけでなく、学校で本に出会い、良い学びにつなげるために、児童が魅力を感じる学校図書館の環境整備や読書活動の充実等に努める必要がある。 ・引き続き必要な書架を配置する必要がある。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>図書の蔵書率向上をめざして取組を進めてきたことにより、その達成率は年々上昇している。今後も達成率の状況を踏まえつつ、図書整備に努める必要がある。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>図書の整備を推進し、学校図書館の充実に努め、児童の学力向上をめざす。また、中央図書館との連携を図り、電子図書を活用する等、児童がより多くの図書と出会える環境整備を検討するとともに、児童にとって魅力ある学校図書館のあり方を検討する。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校教職員人事管理事業		決算書頁	322
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育保育職員課	作成者	課長 増田 善則

2. 事業の目的

市立小学校の円滑な運営に必要な人材の確保を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	241,749	222,278	19,471	一般財源	227,423	214,140	13,283
事業費	868	350	518	国県支出金	14,326	8,138	6,188
内 人 正・再任用職員	66,317	69,521	△ 3,204	地方債			
件 任用職員	174,564	152,407	22,157	特定財源(その他)			
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員	7	5	2				
用職員数(人)	2	6	△ 4				

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校教職員人事管理事業	細事業事業費(千円)	868
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) R3年度の取組と成果			
主 市立小学校にスクール・サポート・スタッフを配置(報酬・期末手当等)・・・16,030千円			
取 市立小学校に市費負担職員を配置(報酬・期末手当等)・・・158,534千円			
組 県補助金を活用し、市立小学校にスクール・サポート・スタッフを配置した。			
<業務内容>			
(1) 教室内の換気や消毒などの新型コロナウイルス感染症対策			
(2) 子どもの健康観察の取りまとめ作業等			
(3) 授業準備(学習プリント等の印刷・配布物印刷、学級ごとの仕分け等)			
(4) 外部対応(欠席連絡、電話取次、来訪者取次等)			
(5) 会議準備(資料印刷、セッティング等)			
(6) その他、学校業務改善に関する業務			

<配置状況>

学校名	予算定数(人)	配置人数
久代小学校	1	1
加茂小学校	1	1
川西小学校	1	1
桜が丘小学校	1	1
川西北小学校	1	1
明峰小学校	2	2
多田小学校	1	1
多田東小学校	1	1
緑台小学校	1	1
陽明小学校	1	1
清和台小学校	1	1
清和台南小学校	1	1
けやき坂小学校	2	2
東谷小学校	2	2
牧の台小学校	1	1
北陵小学校	1	1

※1人につき週20時間程度勤務

※大規模校3校の予算定数は2人

<財源>

- ・スクール・サポート・スタッフ配置事業費県補助金 補助率：県10/10

市立小学校に市費負担職員を配置した。

<従事業務>

学校特別支援加配、生活指導相談員、学校養護教諭補助員、学校図書館司書、校務員、学校日直代行員等

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記(自己評価)の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学校で、予算定数どおりにスクール・サポート・スタッフを配置することができた。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、スクール・サポート・スタッフに未配置がでないよう努める。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】 スクール・サポート・スタッフを学校に配置したことにより、学校教育活動の充実と働き方改革の推進につながった。 市費負担職員の人材確保に努め、円滑な学校運営に取り組んだ。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】 学校運営に必要な市費負担職員を継続配置する。 未配置がでないよう、様々な媒体で募集情報を発信し、人材確保に努める。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校運営事業	決算書頁	330
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ		
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します		
所管部・課	教育推進部 教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹

2. 事業の目的

中学校の生徒に良好で適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	304,147	313,563	△ 9,416	一般財源	291,715	300,990	△ 9,275
事業費	145,979	149,591	△ 3,612	国県支出金	11,949	12,363	△ 414
内訳				地方債			
人件費	8,147	8,215	△ 68	特定財源(その他)	483	210	273
減価償却費	150,021	155,757	△ 5,736				
(参考) 正・再任用職員	1	1					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校運営事業	細事業事業費(千円)	145,979												
(1) 参画と協働の主な手法(実績)															
(2) R3年度の取組と成果															
主な取組	①市立中学校7校の運営・安全管理や施設整備の維持管理(業務委託契約)…45,226千円														
	<p>生徒が安全で、安心して過ごせるように定期的な保守点検を実施するとともに、教材用品の購入や備品の修繕を行った。新型コロナウイルス感染症対策による学習保障に向けて、保健衛生用品等の整備、密を避けるために複数台の機器等の設置、生徒の学びを保障するための教材の購入などを行った。</p> <p>【戦略1】登下校時の安全を確保するため、校門を通過する際にアプリやメールで保護者等に通知する見守りサービスを導入した。</p>														
	<p>生徒数、学級数の推移 ※各年5月1日現在(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒数</td> <td>3,858</td> <td>3,781</td> <td>3,862</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>126</td> <td>124</td> <td>129</td> </tr> </tbody> </table>				R1年度	R2年度	R3年度	生徒数	3,858	3,781	3,862	学級数	126	124	129
	R1年度	R2年度	R3年度												
生徒数	3,858	3,781	3,862												
学級数	126	124	129												
	<p>事業費の推移 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>133,018</td> <td>149,591</td> <td>145,979</td> </tr> </tbody> </table>				R1年度	R2年度	R3年度	事業費	133,018	149,591	145,979				
	R1年度	R2年度	R3年度												
事業費	133,018	149,591	145,979												

事業費の内訳

(単位：千円)

費目	金額	備考
消耗品費	28,712	管理用、教材用
光熱水費	47,930	電気 (28,010)、ガス (7,164)、水道 (12,756)
設備保守管理委託料	5,269	空調設備保守、自動開閉装置保守、消防設備保守等
業務委託料	11,682	夜間、機械警備、ゴミ収集運搬・処分、排水管清掃、害虫駆除等
PFI事業委託料	28,275	空調設備整備PFI
使用料及び賃貸料	1,036	乾式複写機使用料等
その他	23,075	通信運搬費等、新型コロナウイルス感染症対策に係る国庫補助金事業等

光熱水費の推移

(単位：千円)

	R1年度	R2年度	R3年度
電気	22,669	22,370	28,010
ガス	5,273	6,363	7,164
水道	19,427	11,278	12,756

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて「感染症対策等の学校活動継続支援事業」などを活動し、教育環境を整えた。 生徒が校内において各自で検温できるように全校全クラスに非接触型検温器を設置した。 登下校時の校門通過情報を通知するICTを活用した見守りサービスを導入した。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
事業の課題	後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性															
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策と児童の学びを保障するため、引き続き必要な用品等の購入や備品の修繕を行っていく必要がある。 子ども達が安全に過ごせる教育環境を整えるため、効率的かつ効果的に事業を実施していく必要がある。 	<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動における器具修繕など学校要望に応じて随時対応した。 また、コロナ過において交付金などを活用し、環境整備を進めた。 <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>学校運営や設備の更新、修繕などは多数の施設で共通の事業がある。学校だけの視点にとらわれず、保育所や幼稚園等、学校園所全体で中長期的な観点から業務を見直し、より良い教育環境の確保をめざして検討を進めていく。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校備品整備事業	決算書頁	330
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ		
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します		
所管部・課	教育推進部 教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹

2. 事業の目的

中学校における教材備品・管理備品の適正な整備を行い、適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	5,829	7,306	△ 1,477	一般財源	5,560	6,024	△ 464
事業費	5,829	7,306	△ 1,477	国県支出金	269	1,282	△ 1,013
内訳				地方債			
人件費				特定財源(その他)			
正・再任用職員							
件別臨時・委託年度内							
費							
用職員							
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員							
用職員数(人)							
再任用職員							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校備品整備事業	細事業事業費(千円)	5,829	
(1) 参画と協働の主な手法(実績)				
(2) R3年度の取組と成果				
主な取組	<p>① 学校運営上必要な教材・管理備品の購入(備品購入費)…5,829千円</p> <p>② 観察、実験等の教育設備の充実に必要な備品の整備(上記の内、理科備品の購入費)…557千円</p>			
1. 教材・管理備品の購入	<p>各学校のニーズに応じた教材備品、管理備品を購入し、生徒の学びの質向上につながるよう教育環境の充実を図った。</p>			
備品購入費の推移	(単位:千円)			
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
7,218	6,908	7,296	7,306	5,829
備品購入数の推移	(単位:個)			
○教材備品		○管理備品		
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
91	86	73	29	32
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
65	37	46	50	71
令和3年度に購入した主な備品	(教材備品) (管理備品)			
・絵画作品乾燥棚	・マイクロカットシュレッダー			
・電子式直線ミシン	・ハンド型ワイヤレスマイク			
・学習用黒板 等	・デジタル身長計 等			

2. 理科教育設備の整備

学校教育における理科教育の振興を図るため、観察や実験の器具等の備品を購入した。

上記の備品購入費・教材備品の内、
理科備品（R3年度）（単位：千円）

学校名	購入数	購入金額
川西南	16	557

（理科備品）

- ・ 双眼実体顕微鏡
- ・ 人体解剖模型
- ・ 光学水槽 等

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の老朽化した備品を計画的に更新し、備品の適正管理に努めた。また、理科教育設備整備等補助金を活用し、観察や実験の器具等の備品を購入して理科教育設備の充実を図った。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
事業の課題	後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性															
<ul style="list-style-type: none"> ・ 備品が老朽化する中においては、管理状況を的確に把握するとともに、計画的に更新していく必要がある。 ・ 備品については、各学校で同様の物品を購入していることから、業務を見直し、事務の効率化や経費の削減につなげる必要がある。 	<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>補助金等も有効に活用しながら、各学校の備品を計画的に更新し、学習環境の充実を図った。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>備品等を一括で購入し、昨年度と同様各学校のニーズに即した環境の整備に向けて教材備品や管理備品を継続的に整えていく必要がある。また、備品等を一括で購入し、効率化を図るとともに、他市町との共同入札による効果的な手法についても併せて検討する。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校図書整備事業		決算書頁	330
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹

2. 事業の目的

児童の健全な教養を育成するとともに学校の教育課程の展開に寄与する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	1,418	1,432	△ 14	一般財源	1,418	1,432	△ 14
事業費	1,418	1,432	△ 14	国県支出金			
内訳				地方債			
人件費				特定財源 (その他)			
正・再任用職員							
件別期間付・会計年度別							
費用職員							
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員							
用職員数 (人)							
再任用職員							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業 1>	中学校図書整備事業	細事業事業費 (千円)	1,418		
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)					
(2) R3年度の取組と成果					
主な取組	① 生徒の読書活動の推進や言語力を育むための学校図書館の蔵書整備 (図書購入費) … 1,301千円 ② 蔵書数増加への対応のための書架整備の実施 (書架整備費用) … 117千円				
【図書購入費の推移】	(千円)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
購入費	5,321	3,436	3,113	1,378	1,301
【蔵書数の推移】	(冊)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
冊数	92,854	96,070	96,957	98,392	98,505
【書架の整備状況】	(上段:校 下段:千円)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
学校数	5	3	4	1	1
決算額	530	324	318	54	117
【図書標準に達した学校数】	(校)				
年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
学校数	3	4	5	5	5

【各中学校の状況】

学校名	児童数	図書標準(冊)	蔵書数(冊)	図書標準に 対する達成率	貸出数(冊)	1人あたりの 貸出数(冊)
	R3.5.1時点			R4.2.1時点		
川西南	507	13,600	14,316	105.3%	766	2
川西	537	13,920	13,767	98.9%	293	1
明峰	453	11,680	11,767	100.7%	866	2
多田	571	13,600	14,711	108.2%	1,352	2
緑台	389	11,680	12,792	109.5%	689	2
清和台	539	13,600	14,668	107.9%	537	1
東谷	866	16,800	16,484	98.1%	645	1
中学校全体	3,862	94,880	98,505	103.8%	5,148	1

【購入する図書の選定方法（事例）】

- ・委員会活動の一環として、図書委員会が人気のある分野を中心に選定している。
- ・生徒や教職員にアンケートを行い、希望数を参考に図書を選定している。
- ・図書室内にリクエストボックスを設置し、生徒が希望する図書を確認し、選定している。
- ・生徒がよく読む図書や生徒の学習に適した図書を中心に、学校司書が選定している。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> ・国が定める学校図書館図書標準の達成率向上をめざし、図書の購入を進めるとともに、配架に必要な書架の整備を併せて行うことにより、全体の蔵書数は増加している。 ・蔵書数は増加しているが、学校図書館図書標準を達成している学校数は横ばいである。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用状況や図書の貸出状況等、各校の実態を把握した上で、図書整備を進める必要がある。 ・蔵書数の拡大だけでなく、学校で本に出会い、良い学びにつなげるために、生徒が魅力を感じる学校図書館の環境整備や読書活動の充実等に努める必要がある。 ・引き続き必要な書架を配置する必要がある。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>図書の蔵書率向上をめざして取組を進めてきたことにより、その達成率は年々上昇している。今後も達成率の状況を踏まえつつ、図書整備に努める必要がある。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>図書の整備を推進し、学校図書館の充実に努め、生徒の学力向上をめざす。また、中央図書館との連携を図り、電子図書を活用する等、生徒がより多くの図書と出会える環境整備を検討するとともに、生徒にとって魅力ある学校図書館のあり方を検討する。</p>															

<配置状況>

学校名	予算定数（人）	配置人数
川西南中学校	1	1
川西中学校	1	1
明峰中学校	1	1
多田中学校	1	1
緑台中学校	1	1
清和台中学校	1	1
東谷中学校	2	2

※1人につき週20時間程度勤務

※大規模校1校の予算定数は2人

市立中学校に市費負担職員を配置した。

<従事業務>

学校特別支援加配、生活指導相談員、学校養護教諭補助員、学校図書館司書、校務員、学校日直代行員等

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価			左記（自己評価）の具体的説明
	有効性	効率性	
大きく向上した。			<ul style="list-style-type: none"> すべての学校で、予算定数どおりにスクール・サポート・スタッフを配置することができた。
向上した。			
前年度の水準に留まった。	○	○	
前年度の水準を下回った。			
事業の課題			後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、スクール・サポート・スタッフに未配置がでないよう努める。 			<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>スクール・サポート・スタッフを学校に配置したことにより、学校教育活動の充実と働き方改革の推進につながった。</p> <p>市費負担職員の人材確保に努め、円滑な学校運営に取り組んだ。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>学校運営に必要な市費負担職員を継続配置する。</p> <p>未配置がでないよう、様々な媒体で募集情報を発信し、人材確保に努める。</p>

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校運営事業		決算書頁	340
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹

2. 事業の目的

特別支援学校の児童・生徒に良好で適切な教育環境を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	54,208	52,369	1,839	一般財源	30,739	35,061	△ 4,322
事業費	21,341	19,400	1,941	国県支出金	4,346	2,501	1,845
内 人件費	8,147	8,215	△ 68	地方債			
内 賃借料				特定財源 (その他)	19,123	14,807	4,316
減価償却費	24,720	24,754	△ 34				
(参考) 正・再任用職員	1	1					
用職員数 (人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業 1>	特別支援学校運営事業	細事業事業費 (千円)	21,341												
(1) 参画と協働の主な手法 (実績)															
(2) R3年度の取組と成果															
主な取組	川西養護学校の学校運営・安全管理や施設整備の維持管理 (業務委託契約) …7,128千円														
	<p>児童・生徒が安全で、安心して過ごせるように定期的な保守点検を実施するとともに、教材用品の購入や備品の修繕を行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策による学習保障に向けて、保健衛生用品等の整備、密を避けるために複数台の機器等の設置、児童・生徒の学びを保障するための教材の購入などを行った。</p>														
	<p>児童・生徒数、学級数の推移 ※各年5月1日現在 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童・生徒数</td> <td>24 (8)</td> <td>27 (10)</td> <td>22 (10)</td> </tr> <tr> <td>学級数</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「児童・生徒数」の () 内は猪名川町在住者</p>				R1年度	R2年度	R3年度	児童・生徒数	24 (8)	27 (10)	22 (10)	学級数	9	11	10
	R1年度	R2年度	R3年度												
児童・生徒数	24 (8)	27 (10)	22 (10)												
学級数	9	11	10												
	<p>事業費の推移 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>14,058</td> <td>19,400</td> <td>21,341</td> </tr> </tbody> </table>				R1年度	R2年度	R3年度	事業費	14,058	19,400	21,341				
	R1年度	R2年度	R3年度												
事業費	14,058	19,400	21,341												

事業費の内訳

(単位：千円)

費目	金額	備考
消耗品費	2,688	管理用、教材用
光熱水費	6,387	電気 (1,801) 、ガス (2,650) 、水道 (1,936)
設備保守管理委託料	1,512	空調設備保守、自動開閉装置保守、消防設備保守等
業務委託料	1,404	夜間、機械警備、ゴミ収集運搬・処分、排水管清掃、害虫駆除等
PFI事業委託料	4,212	空調設備整備PFI
使用料及び賃貸料	108	乾式複写機使用料等
その他	5,030	通信運搬費等、新型コロナウイルス感染症対策に係る国庫補助金事業等

光熱水費の推移

(単位：千円)

	R1年度	R2年度	R3年度
電気	1,478	1,524	1,801
ガス	1,873	1,987	2,650
水道	1,025	911	1,936

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記（自己評価）の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大による補助金などを活用し、教育環境を整えた。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策と児童・生徒の学びを保障するため、引き続き、必要な用品等の購入や備品の修繕を行っていく必要がある。 子ども達が安全に過ごせる教育環境を整えるうえにおいて、効率的かつ効果的に事業を実施していく必要がある。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動における器具修繕など学校要望に応じて随時対応した。 また、コロナ禍において交付金などを活用し、環境整備を進めた。 <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>学校運営や設備の更新、修繕などは多数の施設で共通の事業がある。学校だけの視点にとらわれず、保育所や幼稚園等、学校園所全体で中長期的な観点から業務を見直し、より良い教育環境の確保をめざして検討を進めていく。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校備品整備事業		決算書頁	340
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	教育推進部	教育政策課	作成者	課長 的場 秀樹

2. 事業の目的

特別支援学校における教材備品・管理備品の適正な整備を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	438	508	△ 70	一般財源	438	361	77
事業費	438	508	△ 70	国県支出金		147	△ 147
内訳				地方債			
人件費				特定財源(その他)			
正・再任用職員							
件別							
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員							
用職員数(人)							
再任用職員							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	特別支援学校備品整備事業	細事業事業費(千円)	438																																								
(1) 参画と協働の主な手法(実績)																																											
(2) R3年度の取組と成果																																											
主な取組	① 学校運営上必要な教材・管理備品の購入(備品購入費)…438千円																																										
1. 教材・管理備品の購入	<p>学校のニーズや児童・生徒の特性に応じた教材備品、管理備品を購入し、学びの質向上につながるように教育環境の充実を図った。</p> <p>備品購入費の推移 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>223</td> <td>218</td> <td>287</td> <td>508</td> <td>438</td> </tr> </tbody> </table> <p>備品購入数の推移 (単位:個)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">○教材備品</th> <th colspan="5">○管理備品</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和3年度に購入した主な備品(管理備品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型ホワイトボード ・レーザープリンター 等 			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	223	218	287	508	438	○教材備品					○管理備品					H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	0	2	1	0	0	5	5	7	5	14
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																																							
223	218	287	508	438																																							
○教材備品					○管理備品																																						
H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																																		
0	2	1	0	0	5	5	7	5	14																																		

--

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

<p>R3年度事業成果の自己評価</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<p>左記（自己評価）の具体的説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の老朽化した備品や児童・生徒の特性に応じた備品を計画的に整備し備品の適正管理に努めた。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 備品が老朽化する中においては、管理状況を正確に把握するとともに、計画的に更新していく必要がある。 誰もが等しく学べる環境を整えるためには、学校のニーズや児童・生徒の特性に的確に対応していく必要がある。特に特殊備品の整備に向けては、学校との連携が重要である。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】 文部科学省が策定した「教材整備指針」、学校から提出された計画書に基づき、児童・生徒の特性に応じた学校備品の購入や、誰もが等しく学ぶことができる教育環境の整備に努めた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】 備品等を一括で購入し、昨年度と同様学校のニーズに即した環境の整備に向けて教材備品や管理備品を継続的に整えていく。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校教職員人事管理事業	決算書頁	342
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ		
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します		
所管部・課	教育推進部 教育保育職員課	作成者	課長 増田 善則

2. 事業の目的

市立特別支援学校の円滑な運営に必要な人材の確保を行う

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	34,249	31,347	2,902	一般財源	25,759	28,503	△ 2,744
事業費	35	31	4	国県支出金	3,238	2,844	394
内件 人正・再任用職員	4,644	4,741	△ 97	地方債			
件 件 費用職員	29,570	26,575	2,995	特定財源(その他)	5,252		5,252
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員							
用職員数(人)	1	1					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	特別支援学校教職員人事管理事業	細事業事業費(千円)	35
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) R3年度の取組と成果			
主な取組	市立特別支援学校にスクール・サポート・スタッフを配置(報酬・期末手当等)・・・1,029千円 市立特別支援学校に市費負担職員を配置(報酬・期末手当等)・・・28,541千円 市立特別支援学校にスクール・サポート・スタッフを配置した。		
<業務内容>	(1) 教室内の換気や消毒などの新型コロナウイルス感染症対策 (2) 子どもの健康観察の取りまとめ作業等 (3) 授業準備(学習プリント等の印刷・配布物印刷、学級ごとの仕分け等) (4) 外部対応(欠席連絡、電話取次、来訪者取次等) (5) 会議準備(資料印刷、セッティング等) (6) その他、学校業務改善に関する業務		

<配置状況>

学校名	予算定数（人）	配置人数
川西養護学校	1	1

市立特別支援学校に市費負担職員を配置した。

<従事業務>

特別支援学校介護人、学校特別支援加配、学校看護師、校務員、学校日直代行員等

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価			左記（自己評価）の具体的説明
	有効性	効率性	
大きく向上した。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算定数どおりにスクール・サポート・スタッフを配置することができた。
向上した。			
前年度の水準に留まった。	○	○	
前年度の水準を下回った。			
事業の課題			後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通じて、スクール・サポート・スタッフに未配置がでないよう努める。 			<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>スクール・サポート・スタッフを学校に配置したことにより、学校教育活動の充実と働き方改革の推進につながった。</p> <p>市費負担職員の人材確保に努め、円滑な学校運営に取り組んだ。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>学校運営に必要な市費負担職員を継続配置する。</p> <p>未配置がでないよう、様々な媒体で募集情報を発信し、人材確保に努める。</p>

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	小学校施設維持管理事業		決算書頁	346
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	資産マネジメント部 施設マネジメント課	作成者	課長 中野 貴治	

2. 事業の目的



子どもたちの安全を確保し、良好な教育環境を維持する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	629,767	120,827	508,940	一般財源	30,438	82,638	△ 52,200
事業費	625,123	107,871	517,252	国県支出金	236,129	26,989	209,140
内訳				地方債	363,200	11,200	352,000
人件費	4,644	12,956	△ 8,312	特定財源(その他)			
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員		1	△ 1				
用職員数(人)	再任用職員	1	1				

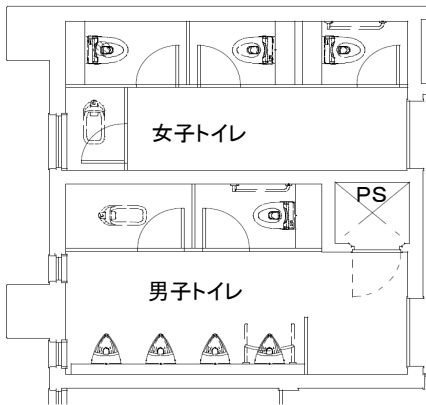
4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	小学校施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	625,123
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) R3年度の取組と成果			
主な取組	<p>①小学校6校のトイレ改修工事を実施(設備工事費)…537,144千円</p> <p>②小学校16校の施設、設備の維持管理のため、建物、設備・工作物修繕を実施(修繕料)…66,568千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した加茂、川西、多田、多田東、けやき坂、北陵小学校のトイレを新型コロナウイルス感染症予防と拡大防止の観点から乾式化、洋式化改修工事を実施した。 ・久代小学校外12校(計13校)の普通教室等に新型コロナウイルス感染症予防と拡大防止の観点から換気扇を設置した。 ・計画的な修繕及び老朽化による漏水や雨漏りなどの突発修繕を実施した。 		
【主な修繕・工事】			
教室等換気扇修繕 (清和台小学校)			
修繕概要 窓の一部に換気扇を設置	 <p>設置前</p>	⇒	 <p>設置後</p>
給水管修繕 (桜が丘小学校)			
修繕概要 漏水した埋設給水管を取り替え	 <p>修繕前</p>	⇒	 <p>修繕後</p>

トイレ改修工事
(けやき坂小学校)

工事概要

新型コロナウイルス感染症対策の観点から
乾式化、洋式化仕様に改修工事を実施



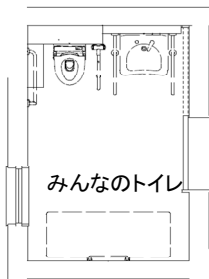
男子トイレ



みんなのトイレ



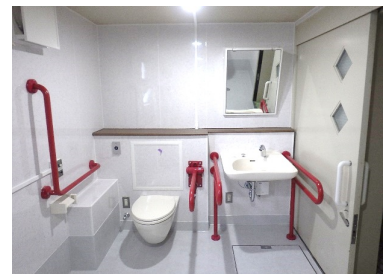
改修前



男子トイレ



みんなのトイレ



改修後

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価		左記（自己評価）の具体的説明
	有効性	効率性
大きく向上した。		
向上した。	○	
前年度の水準に留まった。		○
前年度の水準を下回った。		
事業の課題 ・施設の老朽化、緊急対応等による施設維持修繕と学校要望修繕の計画的な対応が必要である。		後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性 【後期基本計画を振り返っての総括】 施設保守点検の結果を踏まえ、「川西市公共施設等総合管理計画（学校施設長寿命化編）」に基づき、施設管理者と協議を行い計画的、かつ効果的に修繕できた。 【令和4年度以降の方向性】 施設保守点検の結果を踏まえ、老朽化した施設など「川西市公共施設等総合管理計画（学校施設長寿命化編）」に基づき、施設管理者協議を行い計画的、かつ効果的に改修工事および修繕を行う。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中学校施設維持管理事業		決算書頁	346
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	資産マネジメント部 施設マネジメント課	作成者	課長 中野 貴治	

2. 事業の目的

生徒の安全を確保し、良好な教育環境を維持する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	179,926	83,697	96,229	一般財源	28,595	38,293	△ 9,698
事業費	171,779	75,482	96,297	国県支出金	60,531	18,904	41,627
内訳				地方債	90,800	26,500	64,300
人件費	8,147	8,215	△ 68	特定財源(その他)			
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員	1	1					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中学校施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	171,779
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) R3年度の取組と成果			
主な取組	<p>①中学校3校のトイレ改修工事を実施(設備工事費)…58,113千円</p> <p>②川西南中学校の屋外教育施設整備工事を実施(維持管理工事費)…65,260千円</p> <p>③中学校7校の施設・設備の維持管理のため、建物、設備・工作物修繕を実施(修繕料)…45,546千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した清和台中学校、川西南及び川西中学校の屋内体育館のトイレを新型コロナウイルス感染症予防と拡大防止の観点から乾式化、洋式化改修工事を実施した。 ・明峰中学校外3校(計4校)の普通教室等に新型コロナウイルス感染症予防と拡大防止の観点から換気扇を設置した。 ・川西南、明峰中学校のプール槽内の表面劣化が激しく生徒がケガをする危険性があるため修繕を実施した。 ・川西南中学校の第二グラウンドにおいて、グラウンド改修、屋外トイレ建替え工事を実施した。 ・計画的な修繕及び老朽化による漏水や雨漏りなどの突発修繕を実施した。 		
【主な修繕・工事】			
屋外教育施設整備工事 (川西南中学校)	 		
工事概要 給食センター建設に伴い屋外グラウンドの整備、トイレ改修工事を実施			
令和2年度	令和3年度		
2月	3月	4月	5月 6月
解体・造成工事等	グラウンド舗装・防球ネット・トイレ新築等		
●2/8着手	●5/14概成工期		

プール修繕
(明峰中学校)

修繕概要
プール槽内表面を専用塗料で塗装



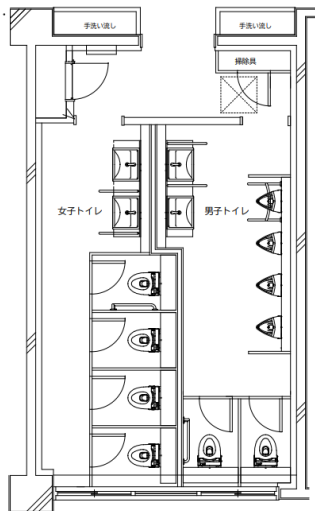
修繕前



修繕後

トイレ改修工事
(清和台中学校)

工事概要
新型コロナウイルス感染症対策の観点から
乾式化、洋式化仕様に改修工事を実施



男子トイレ



工事前



工事後

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価			左記(自己評価)の具体的説明
	有効性	効率性	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化による漏水、雨漏りなど不具合の緊急対応が多くなっているが、施設維持修繕等を計画的・効果的に行い、良好な教育環境の維持を概ね達成することができた。 新型コロナウイルス感染症予防と拡大防止の観点から、清和台中学校外2校(計3校)の校舎等のトイレを改修し、多田中学校外2校(計3校)の普通教室等に換気扇の設置を行い生徒の安全・安心が確保することができた。
大きく向上した。			
向上した。	○		
前年度の水準に留まった。		○	
前年度の水準を下回った。			
事業の課題 ・施設の老朽化、緊急対応等による施設維持修繕と学校要望修繕の計画的な対応が必要である。			後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性 【後期基本計画を振り返っての総括】 施設保守点検の結果を踏まえ、「川西市公共施設等総合管理計画(学校施設長寿命化編)」に基づき、施設管理者と協議を行い計画的、かつ効果的に修繕できた。 【令和4年度以降の方向性】 施設保守点検の結果を踏まえ、老朽化した施設など「川西市公共施設等総合管理計画(学校施設長寿命化編)」に基づき、施設管理者協議を行い計画的、かつ効果的に改修工事および修繕を行う。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	特別支援学校施設維持管理事業		決算書頁	346
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	38 計画的・効果的に教育環境を整備します			
所管部・課	資産マネジメント部 施設マネジメント課	作成者	課長 中野 貴治	

2. 事業の目的

子どもたちの安全を確保し、良好な教育環境を維持する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	1,294	19,004	△ 17,710	一般財源	1,294	2,441	△ 1,147
事業費	1,294	19,004	△ 17,710	国庫支出金		5,563	△ 5,563
内訳	正・再任用職員			地方債		11,000	△ 11,000
	在職・会計年度任用職員			特定財源(その他)			
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員							
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業 1 >	特別支援学校施設維持管理事業	細事業事業費(千円)	1,294
(1) 参画と協働の主な手法(実績)			
(2) R3年度の取組と成果			
主な取組	①川西養護学校の施設、設備の維持管理のため、床、設備修繕を実施(修繕料)…1,294千円		
	<ul style="list-style-type: none"> ・経年の使用で摩耗の度合いが大きい教室の床タイルカーペットの修繕をした。 ・保守点検で判明した誘導灯の修繕をした。 		
	【主な修繕】		
	カーペット修繕	修繕概要 床カーペットを貼り替え	
		⇒	
	修繕前		修繕後

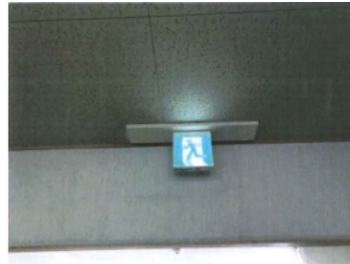
誘導灯修繕

修繕概要

バッテリー不良のため誘導灯の取り替え



修繕前



修繕後

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

<p>R3年度事業成果の自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<p>左記（自己評価）の具体的説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化による対応が多くなっているが、施設維持修繕等を計画的・効果的に行い、良好な教育環境の維持を概ね達成することができた。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化、緊急対応等による施設維持修繕と学校要望修繕の計画的な対応が必要である。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <p>施設保守点検の結果を踏まえ、「川西市公共施設等総合管理計画（学校施設長寿命化編）」に基づき、施設管理者と協議を行い計画的、かつ効果的に修繕できた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>施設保守点検の結果を踏まえ、老朽化した施設など「川西市公共施設等総合管理計画（学校施設長寿命化編）」に基づき、施設管理者と協議を行い計画的、かつ効果的に改修工事および修繕を行う。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生涯学習推進事業	決算書頁	348
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ		
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます		
所管部・課	教育推進部 社会教育課	作成者	課長 寺田 義一

2. 事業の目的

市民の学習ニーズに応える生涯学習を推進する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	10,423	10,146	277	一般財源	10,345	10,146	199
事業費	1,322	978	344	国県支出金	78		78
内 人 正・再任用職員	8,147	8,215	△ 68	地方債			
件 正・再任用職員	954	953	1	特定財源(その他)			
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員	1	1					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	生涯学習推進事業	細事業事業費(千円)	1,322
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	審議会・検討会	団体等への補助	
(2) R3年度の取組と成果	<p>①社会教育委員の会の開催(社会教育委員への報酬)…557千円</p> <p>②社会教育関係団体への支援(団体への補助金)…162千円</p> <p>③社会教育主事講習への教職員の派遣(出席負担金等)・・・78千円</p> <p>(社会教育委員の会)</p> <p>社会教育委員の会は「社会教育法」に基づき、社会教育に関する助言や諸計画の立案、また教育委員会の諮問に応じ意見を述べ、必要な研究調査などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員構成:学識経験者、学校教育・社会教育・家庭教育の関係者から、10名に委嘱(定数15名以内) 今後の川西市における社会教育のあり方について「川西市社会教育の方向性～つながり、学びあうこと～」を研究テーマとして、地域学校協働本部部会とレフネック部会の2部会に分かれ、年11回審議を行った。 会議回数:全体会2回(書面決議1回を含む)、地域学校協働本部部会4回、レフネック部会5回 <p>(身体障害者社会学級への支援)</p> <p>阪神地区に在住の16歳以上の聴覚・言語障がい者(くすの木学級)、視覚障がい者(青い鳥学級)を対象に社会人としての幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、交流の場として相互理解を深め、ともに生きる喜びを創造する場を提供することを目的とした県の委託事業に係る運営委員会へ、運営委員(市民対象者1名)の出席及び障がいを持つ市民が運営委員会が実施する教室に参加する際の支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 阪神くすの木学級:伊丹教室を1回実施。(伊丹市立図書館「ことば蔵」にて講演) 対象市町:伊丹市、宝塚市、三田市、川西市、猪名川町、西宮市、尼崎市、芦屋市(7市1町) 阪神青い鳥学級北支部:新型コロナウイルス感染症拡大のため中止 対象市町:伊丹市、宝塚市、三田市、川西市、猪名川町(4市1町) 		

(社会教育関係団体への補助金の交付)

奉仕活動、ユネスコ憲章に基づく事業などを推進する活動団体の支援を行うため、下記の社会教育関係団体に補助金を交付した。

補助金交付状況

(千円)

団体名	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
川西市婦人会	90	90	90	90	73
川西ユネスコ協会	90	90	90	0	90

※川西ユネスコ協会は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度の事業を休止したため、補助金の交付なし。

(社会教育主事講習派遣事業に関する取り組み)

地域学校協働本部を活用した学校と地域の連携の充実に向け、社会教育の視点を持った教職員を養成するため、教育保育課所属の指導主事1名を社会教育主事講習に派遣した。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記(自己評価)の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員の会は、コロナ禍にあって、オンライン会議を併用し、今後の川西市における社会教育のあり方について審議いただき、最終提言に向けて取りまとめがなされた。 身体障害者社会学級のうち、阪神くすの木学級においては、感染症対策のため、半日の開催となったが、参加を支援することで、障がいを持つ市民の交流を深めることができた。 社会教育関係団体については、活動の規模を縮小されるなど、新型コロナウイルス感染症の影響が見られたが、感染症対策を徹底しながら活動を再開された。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
事業の課題	後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性															
<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員の会については、任期满りに伴い令和4年度に改選を行うとともに、本市の抱える社会教育への課題について審議いただく必要がある。 身体障害者社会学級については、若い年齢層の参加の促進が進まず、学級生の高齢化、固定化が進んでいる。 社会教育関係団体に対する支援のあり方を検討する必要がある。 	<p>【後期基本計画を振り返ったの総括】</p> <p>社会教育委員の会では、2つの研究テーマについて審議いただき、いずれも最終提言の提出に向けた取りまとめができた。公民館では、提言を受けて課題解決に向けた取り組みを始めている。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4、5年度の社会教育委員の会は、「社会教育施設のあり方について」を研究テーマとして協議していく。 社会教育関係団体の事務局機能、補助金について見直す。 															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	生涯学習短期大学運営事業		決算書頁	350
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます			
所管部・課	教育推進部 社会教育課	作成者	課長 寺田 義一	

2. 事業の目的

生涯学習推進の核として生涯学習短期大学の学習環境を整備し、生涯学習の定着・進展を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	15,413	13,942	1,471	一般財源	15,247	13,932	1,315
事業費	1,155	539	616	国庫支出金			
内 人件費	8,147	8,215	△ 68	地方債			
内 賃借料	6,111	5,188	923	特定財源(その他)	166	10	156
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員	1	1					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	生涯学習短期大学運営事業	細事業事業費(千円)	1,155
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	講座・フォーラム	審議会・検討会	市民等からの意見
(2) R3年度の取組と成果	<p>主な取組</p> <p>①生涯学習短期大学運営(会計年度任用職員報酬、パートタイム会計年度任用職員期末手当)…6,111千円</p> <p>②専攻学科講座の実施(講師への謝礼)…0千円</p> <p>③オープン講座の実施(講師への謝礼)…600千円</p> <p>市内在住・在勤者を対象に、受講者が自らの意思により学習するライフスタイルを発見し、自己の新しい生き方を創造するとともに、社会貢献として地域社会の活性化に寄与できるよう、大学程度の専門的かつ高度な知識や技術の習得をめざした学習機会の提供を目的として、平成6年に2年制の短期大学を想定した生涯学習短期大学レフネックを開講。専攻学科の他、レフネック学生だけでなく一般の市民も受講できるオープン講座を実施して市民の方に学習の機会を提供している。</p> <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため、多数の学生が一堂に集まる専攻学科については令和2年度に引き続き中止した。オープン講座は令和2年度は中止したが、令和3年度は包括連携協定を締結している大阪青山大学の北摂キャンパス体育館講義室を借用することで、受講定員を講義室定員の半数程度、手指の消毒や換気などの感染予防対策を講じながら実施し、市内在住・在勤の方々に学習の機会を提供することができた。</p> <p>《令和3年度の事業内容》</p> <p>【専攻学科】</p> <p>26期2年次…こころの未来学科 72名、エネルギー変換工学科 26名……中止</p> <p>27期1年次…宇宙・生命学科、日本史学科(入学定員は各学科72名) ……中止</p> <p>【オープン講座】大阪青山大学の北摂キャンパス体育館講義室にて実施(受講定員50名/講義室定員120名)</p> <p>①減災と復興…次の大災害に備える 4回</p> <p>②日本の古典に親しむ 4回</p> <p>③持続可能な社会に向けた生物模倣技術 4回</p>		

【特別講座】大阪青山大学と共催

大阪青山歴史文学博物館 「わがまち北摂再発見」鑑賞と解説 1回



博物館鑑賞



解説受講

《生涯学習短期大学レフネック応募状況》

レフネックは、毎年募集する学科内容が異なるため、学科により応募者数に増減が生じる。入学実績がない応募者には一学科50名の優先枠を設け、入学の機会均等に努めている。

	H29	H30	R1	R2	R3
募集定員(人)	200	200	200		
応募者数(人)	147	221	186	221	

令和2年度に応募受付を行ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため開講できなかった。そのため、令和3年度は令和2年度の応募者を対象に入学抽選を行い、144名(各学科72名)の入学予定者を確定させた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため、令和3年度も令和2年度に引き続き専攻学科は中止した。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記(自己評価)の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は開講予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため令和2年度に引き続き専攻学科は中止となり、学生に学びの場を提供できなかった。 令和3年度のオープン講座は連携協定を締結している大学の講義室を活用することで、市内在住・在勤の方々に学習の場を提供することができた。 新たな試みとして大阪青山大学との共同企画で、特別講座「大阪青山歴史文学博物館「わがまち北摂再発見」鑑賞と解説」を実施した。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 現役世代の入学者がごく少数であり、実際は受講する学生が高齢者世代中心となっているため、講義内容、開催手法及び開催時間帯などを工夫する必要がある。 近年は民間でも現役世代を対象とした一般講座を開設しているなど行政が提供する必要性も変化してきている。 学習した方々がその学んだ知識や成果を活かして地域に貢献出来るような仕組みを構築する必要がある。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返った際の総括】</p> <p>コロナ禍のため、令和2年度は全講座中止、令和3年度はオープン講座のみの実施となったが、事業実施をとおして市内在住・在勤者を対象に、大学程度の専門的かつ高度な知識や技術の習得をめざした学習機会の提供に寄与することができた。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>事業をゼロベースで見直し、新たな生涯学習の仕組みを構築する。民間連携の活用や公民館など多様な実施主体が連携・協働し、幅広い世代が学習できる場を提供するよう検討していく。</p>															

(参考)開講中止に至った経緯

- ・川西市高齢者大学りんどう学園運営委員会は学識経験者（1人）、老人クラブ連合会代表者（1人）、各専門学科代表者（6人）、福祉部職員（1人）及び社会教育課職員（1人）の合計10人で構成されている。今年度は4月に1回開催し、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じながらの講座実施や学科の運営方法等について協議を行った。
- ・4月25日から緊急事態措置が実施されたこと、また、高齢者に対する新型コロナワクチン接種が7月末頃で完了する見通しであったことから、8月下旬まで高齢者大学の開講を延期することとした。
- ・6月20日で緊急事態措置が解除されたものの、引き続き感染収束に向けた取組を行っていく必要があるため6月21日からまん延防止等重点措置が実施された。
- ・8月20日から再び緊急事態措置が実施された。
- ・受講生からそのような状況の中で高齢者大学を開講することに疑問の声が多数上がったため、それらの意見などを踏まえて運営委員会で再度協議をした結果、令和2年度に引き続き令和3年度も当該大学の開講中止を決定した。

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

<p>R3年度事業成果の自己評価</p> <table border="1" data-bbox="145 1323 708 1608"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。			前年度の水準に留まった。	○	○	前年度の水準を下回った。			<p>左記（自己評価）の具体的説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため令和2年度と同様に事業を中止することとなった。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。																
前年度の水準に留まった。	○	○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の講座内容を整理し、より市民ニーズに特化した内容に変更する必要がある。 ・高齢者が生涯学習の場をととして自己研鑽に留まらず、学習の成果を地域社会の活性化へつなげることができる仕組みを構築する必要がある。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返っての総括】 新型コロナウイルス感染症の拡大により、人が集うことが制限されたため、令和2年度・3年度は事業を中止したが、高齢者大学事業を実施することで高齢者の生涯学習への参加に寄与した。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】 事業をゼロベースで見直し、新たな生涯学習の仕組みを構築する。民間連携の活用や公民館など多様な実施主体が連携・協働し、幅広い世代が学習できる場を提供するよう検討していく。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	公民館運営事業		決算書頁	354
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます			
所管部・課	教育推進部 川西公民館	作成者	館長 藤井 恵子	

2. 事業の目的

生涯学習の拠点としての学習機会の充実を図り、学習成果を生かせる仕組みづくりに努める

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較	
総事業費	287,082	269,348	17,734	一般財源	281,185	265,034	16,151	
事業費	61,030	55,538	5,492	国県支出金	535	1,884	△ 1,349	
内 人 件 費	正・再任用職員	93,040	90,692	2,348	地方債			
	在任期付・会計年度任用職員	91,121	81,227	9,894	特定財源(その他)	5,362	2,430	2,932
減価償却費	41,891	41,891						
(参考) 正・再任用職員	8	7	1					
用職員数(人)	再任用職員	6	7	△ 1				

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	公民館運営事業	細事業事業費(千円)	61,030																																																																																										
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携																																																																																												
(2) R3年度の取組と成果	<p>【戦略1・2】①インターネット予約システム導入費用 …253千円</p> <p>生涯学習の拠点として、公民館でのグループ活動の支援を行い、市民の学習機会の提供をし情報提供を行った。貸館中止期間、活動の種類によって使用制限などの期間もあったが、できる限り貸館を行った。令和3年6月30日まで、使用料の半額減免を実施した。</p> <p>公民館講座については、多数の人が集まるリスクを避け、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前期は講座を中止し、令和4年1月以降に読み聞かせなど一部の講座を実施した。</p> <p>【戦略1・2】公民館・コミュニティセンターを対象にインターネットによる予約システムを令和4年2月から導入し、貸室予約の利便性の向上を図った。</p>																																																																																												
主な取組																																																																																													
1. 公民館利用件数及び延べ利用人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度 館名</th> <th colspan="2">R1年度</th> <th colspan="2">R2年度 ※</th> <th colspan="2">R3年度 ※※</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>人数</th> <th>件数</th> <th>人数</th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川西</td> <td>2,322</td> <td>36,877</td> <td>1,243</td> <td>14,962</td> <td>1,712</td> <td>22,486</td> </tr> <tr> <td>川西南</td> <td>929</td> <td>13,386</td> <td>611</td> <td>7,439</td> <td>965</td> <td>12,632</td> </tr> <tr> <td>明峰</td> <td>1,276</td> <td>18,034</td> <td>736</td> <td>11,191</td> <td>831</td> <td>11,540</td> </tr> <tr> <td>多田</td> <td>980</td> <td>14,897</td> <td>419</td> <td>5,368</td> <td>511</td> <td>6,194</td> </tr> <tr> <td>緑台</td> <td>1,460</td> <td>23,415</td> <td>864</td> <td>10,349</td> <td>989</td> <td>11,619</td> </tr> <tr> <td>けやき坂</td> <td>983</td> <td>14,366</td> <td>492</td> <td>6,854</td> <td>534</td> <td>7,567</td> </tr> <tr> <td>清和台</td> <td>1,126</td> <td>14,209</td> <td>718</td> <td>8,860</td> <td>774</td> <td>8,480</td> </tr> <tr> <td>東谷</td> <td>1,737</td> <td>23,532</td> <td>1,112</td> <td>14,790</td> <td>1,286</td> <td>15,339</td> </tr> <tr> <td>北陵</td> <td>1,136</td> <td>19,072</td> <td>734</td> <td>11,228</td> <td>927</td> <td>16,244</td> </tr> <tr> <td>黒川</td> <td>151</td> <td>3,210</td> <td>48</td> <td>468</td> <td>54</td> <td>828</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,100</td> <td>180,998</td> <td>6,977</td> <td>91,509</td> <td>8,583</td> <td>112,929</td> </tr> </tbody> </table>			年度 館名	R1年度		R2年度 ※		R3年度 ※※		件数	人数	件数	人数	件数	人数	川西	2,322	36,877	1,243	14,962	1,712	22,486	川西南	929	13,386	611	7,439	965	12,632	明峰	1,276	18,034	736	11,191	831	11,540	多田	980	14,897	419	5,368	511	6,194	緑台	1,460	23,415	864	10,349	989	11,619	けやき坂	983	14,366	492	6,854	534	7,567	清和台	1,126	14,209	718	8,860	774	8,480	東谷	1,737	23,532	1,112	14,790	1,286	15,339	北陵	1,136	19,072	734	11,228	927	16,244	黒川	151	3,210	48	468	54	828	合計	12,100	180,998	6,977	91,509	8,583	112,929
年度 館名	R1年度		R2年度 ※		R3年度 ※※																																																																																								
	件数	人数	件数	人数	件数	人数																																																																																							
川西	2,322	36,877	1,243	14,962	1,712	22,486																																																																																							
川西南	929	13,386	611	7,439	965	12,632																																																																																							
明峰	1,276	18,034	736	11,191	831	11,540																																																																																							
多田	980	14,897	419	5,368	511	6,194																																																																																							
緑台	1,460	23,415	864	10,349	989	11,619																																																																																							
けやき坂	983	14,366	492	6,854	534	7,567																																																																																							
清和台	1,126	14,209	718	8,860	774	8,480																																																																																							
東谷	1,737	23,532	1,112	14,790	1,286	15,339																																																																																							
北陵	1,136	19,072	734	11,228	927	16,244																																																																																							
黒川	151	3,210	48	468	54	828																																																																																							
合計	12,100	180,998	6,977	91,509	8,583	112,929																																																																																							
	<p>※ 新型コロナウイルス感染症予防のため、令和2年度は4月7日～5月31日貸館中止、活動の種類によって貸館制限を行った期間があった。</p> <p>※※ 新型コロナウイルス感染症予防のため、令和3年度は、4月25日～5月11日貸館中止、閉館時間の短縮が85日間あり、活動の種類によって貸館制限を行った期間があった。</p>																																																																																												

2. 対象別講座一覧

年度	高齢者		成人		青少年(幼児・親子)		その他		合計	
	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数	講座数	回数
H30年度	1	5	99	186	47	310	21	23	168	524
R1年度	1	5	112	191	50	303	18	20	181	519
R2年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3年度	0	0	12	12	9	17	0	0	21	29

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、講座を開催しなかった。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、前期の講座を中止し、後期に一部の講座を開催した。

3. 貸館稼働率

施設名	R1年度	R2年度	R3年度
川西	28.8%	18.6%	22.3%
川西南	16.1%	11.6%	15.0%
明峰	15.2%	12.1%	14.7%
多田	16.8%	7.2%	9.3%
緑台	14.9%	10.9%	10.8%
けやき坂	16.2%	8.7%	9.5%
清和台	14.9%	11.7%	12.0%
東谷	24.8%	17.9%	20.8%
北陵	17.7%	8.5%	17.0%
全館平均	18.4%	11.9%	14.6%

※各館において、各室の稼働率を平均したもの

4. コロナ禍における使用料の減免件数と金額(R3年度分)

施設名	件数	金額(円)
川西	87	31,010
川西南	79	27,500
明峰	35	9,610
多田	47	11,600
緑台	104	25,840
けやき坂	53	11,570
清和台	97	28,180
東谷	126	34,740
北陵	120	40,290
合計	748	220,340

令和3年4月1日～
6月30日利用分

※新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言に伴う貸館制限を緩和するにあたって、使用料を1/2に減額することで市民活動を支援することを目的として開始したものの。(令和3年6月30日終了)

5. 公民館図書室利用状況

		R1年度	R2年度	R3年度
蔵書数 (冊)	一般図書	46,883	45,203	46,399
	児童書	52,768	51,663	53,571
	合計	99,651	96,866	99,970
貸出数 (冊)	一般図書	60,944	60,688	72,766
	児童書	55,537	46,492	61,896
	合計	116,481	107,180	134,662

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記(自己評価)の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。	○		前年度の水準に留まった。		○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> インターネットによる予約システムを令和4年2月から導入し、貸室予約の利便性の向上を図った。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は全講座を中止したが、今年度は令和4年1月以降、感染対策を講じながら講座を再開できた。 公民館を利用した活動は、貸館中止期間や活動種類による制限がある期間もあったが、学習機会を提供できた。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。	○															
前年度の水準に留まった。		○														
前年度の水準を下回った。																
<p>事業の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化や市民のニーズに合わせた学習機会の充実をさらに図るとともに、公民館が地域の学びの拠点となる必要がある。 登録グループのグループ数や参加人数が減少傾向にある。 市民の活動拠点としてより弾力的な運用ができる方法を検討する必要がある。 	<p>後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性</p> <p>【後期基本計画を振り返ったの総括】</p> <p>登録グループの活動を支援し、市民のニーズや社会情勢に応じた講座を実施することにより、市民の学習機会を提供した。図書室では、中央図書館と連携して、図書の貸出を継続して行った。</p> <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <p>社会教育課と連携し、新たな講座の仕組みについて検討するなど、社会の変化や学習ニーズに応じた学習機会や学習の場の提供を継続して行う。また、今後はさらに子どもの居場所、市民の活動拠点としてより弾力的な運用が可能となるよう、機能転換も視野に入れ、運営主体も含めて公民館の在り方を検討する。</p>															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	図書館運営事業		決算書頁	356
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	39 市民の学びを通して地域社会を支えます			
所管部・課	教育推進部	中央図書館	作成者	館長 村山 尚子

2. 事業の目的

図書館資料の収集・整理・保存をおこない、市民等の利用に供し、生涯教育を支援する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	149,613	146,737	2,876	一般財源	144,980	141,443	3,537
事業費	45,315	43,391	1,924	国県支出金	4,287	4,955	△ 668
内 人 正・再任用職員	40,735	41,075	△ 340	地方債			
件 正・再任用職員	5	5		特定財源(その他)	346	339	7
誤 費用職員	52,169	51,130	1,039				
減価償却費	11,394	11,141	253				
(参考) 正・再任用職員	5	5					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	図書館運営事業	細事業事業費(千円)	45,315
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	団体等との共催・連携	講座・フォーラム	審議会・検討会
(2) R3年度の取組と成果	<p>主 ①窓口業務・資料提供・ボランティア支援等の業務(会計年度任用職員報酬等)・・・52,169千円</p> <p>取 ②図書等の整備(図書購入費)・・・14,018千円</p> <p>組</p> <p>○取組内容</p> <p>1. 図書館資料(本、雑誌、CD等)を収集・整理・保存し、市民等の利用に供したほか、読書案内・読書相談及び調査相談を実施した。</p> <p>2. 学校・幼稚園・保育所等の登録団体に団体貸出を実施した。</p> <p>3. 公民館図書室(黒川除く)との相互連携のため、本の配送等を実施した。</p> <p>4. 子どもの読書活動の推進のため、おはなし会や秋の読書週間行事を実施した。</p> <p>5. 図書館運営にかかるボランティア活動の場を提供し、図書館サービスの充実を図った。</p> <p>①視覚障がい者へのDAISY(デージー)図書、点字図書の作成。</p> <p>②おはなしボランティアの活動支援、連携により絵本の読み聞かせ等の実施。</p> <p>③返却本の配架や書架整理など開館前の準備を行う図書館ボランティアの活動支援。</p> <p>※ コロナ禍により、ボランティア講座や対面朗読などボランティア活動の一部が縮小、中止された。</p> <p>6. 「図書館の学校」・実習の受入を行った。</p> <p>①小学3年生を対象に「図書館の学校」(出前講座):8校、712人</p> <p>②新任教諭等図書館実習:3人</p> <p>③トライやる・ウィーク(中学2年生、図書館業務の体験):2校、4名</p> <p>7. 新型コロナウイルス感染防止対策を行い、できる限り通常どおり開館した。</p> <p>8. 令和2年度より開設した電子図書館を拡充し、利用者がより多くの資料を利用できるようになった。</p> <p>9. 図書館開館30周年記念行事を開催した。</p> <p>①開館30周年特別展示を実施。</p> <p>②「川西むかしむかし」の出版。クリアファイルの配布。</p> <p>③「わたしの川西むかしむかし」講座を開講とそれにちなんだイラスト、写真展を実施。</p>		

1 (1) 蔵書冊数・開館日数・来館者数・貸出者数・貸出冊数

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
蔵書冊数(冊)	327,942	327,831	323,516	322,523	325,319
開館日数(日)	289	283	265	245	286
来館者数(人)	386,989	374,608	333,730	235,746	276,738
貸出者数(人)	270,103	261,883	239,162	170,965	205,932
貸出冊数(冊)	719,102	677,186	622,920	506,889	625,146
有効登録者数(人)	19,167	18,281	17,120	13,186	14,375

(2) 予約件数の推移

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
予約件数(件)	130,206	130,681	126,892	127,956	148,866
うちインターネット 予約件数(件)	105,714	106,418	105,594	110,860	129,501

予約: 10冊まで

2. 団体貸出実績

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
登録団体数	102	137	132	89	141
貸出冊数(冊)	25,307	24,254	24,790	20,247	37,909

団体貸出: 200冊8週間

登録団体: 市内の学校、幼稚園、保育所、民間文庫等で図書館に登録している団体

3. 公民館との相互連携(配送)

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
配送回数(回)	97	99	96	93	98
配送冊数(冊)	42,540	40,165	39,021	42,059	52,233

配送: 週2回

4. ボランティアの活動状況

	人数(人)	資料作成数*
音訳ボランティア	27	3
点訳ボランティア	8	9

※ボランティア
保険登録数

* 資料作成数: (タイトル数)

	人数(人)	活動回数(回)
おはなしボランティア	23	9
書架整理ボランティア	19	986

5. 電子図書館

【利用統計】

	R2年度	R3年度
ログイン数(件)	11,077	13,279
閲覧数(件)	12,455	16,388
貸出点数(点)	4,492	5,229

【コンテンツ統計】

	R2年度	R3年度
購入ライセンス数(点)	708	3,394
無料開放ライセンス数(点)	7,315	8,672

※R2年度は、R2年8月～R3年3月の実績

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	左記(自己評価)の具体的説明															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>有効性</th> <th>効率性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大きく向上した。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上した。</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>前年度の水準に留まった。</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>前年度の水準を下回った。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		有効性	効率性	大きく向上した。			向上した。	○		前年度の水準に留まった。		○	前年度の水準を下回った。			<ul style="list-style-type: none"> 開館日数はコロナ前の水準に戻っており、予約件数、団体貸出(登録団体数、貸出冊数)、公民館との相互連携(配送冊数)は過去最高の実績となっている。 開館30周年記念行事を開催し、前年度に比べて図書館のPRが出来た。 電子図書館については、コンテンツ数を1.5倍に増やすなど拡充に努めた。
	有効性	効率性														
大きく向上した。																
向上した。	○															
前年度の水準に留まった。		○														
前年度の水準を下回った。																
事業の課題	後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性															
<ul style="list-style-type: none"> 開館日数はコロナ禍前の水準に戻っているが、来館者数、貸出者数は戻っていない。 来館参加型の行事において、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、定員数の制限などを行っており、希望者が参加できない場合がある。 電子図書館やホームページを活用したサービスについては、検討が必要。 	<p>【後期基本計画を振り返ったの総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の収集・整理・保存を計画的に行った。 ボランティアの育成、活動支援は継続して実施している。 学校や保育所等への団体貸出、電子図書館の開設など来館しなくても図書の利用が可能なサービスを拡充した。 <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポストコロナを見据え、来館しなくても図書の利用ができる仕組みの充実を図る。 これまで来館参加型で行ってきた講座や行事の開催方法を見直す。 															

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	文化財事業		決算書頁	352
視点・政策	03 生きがい・07 学ぶ			
施策	40 ふるさと川西の文化遺産を保存・継承・活用します			
所管部・課	教育推進部	社会教育課	作成者	課長 寺田 義一

2. 事業の目的

市内の文化財を貴重な歴史文化遺産として保護、顕彰、活用する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R3年度	R2年度	比較	財源	R3年度	R2年度	比較
総事業費	90,448	94,365	△ 3,917	一般財源	83,571	75,171	8,400
事業費	33,146	38,975	△ 5,829	国県支出金	1,500	6,154	△ 4,654
内 人 正・再任用職員	24,441	24,645	△ 204	地方債	4,400	12,700	△ 8,300
件 任期付職員・会計士	20,712	18,596	2,116	特定財源(その他)	977	340	637
費 兼任用職員	12,149	12,149					
減価償却費							
(参考) 正・再任用職員	3	3					
用職員数(人)							

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	文化財保存啓発事業	細事業事業費(千円)	18,103		
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	審議会・検討会	講座・フォーラム	団体等との共催・連携		
(2) R3年度の取組と成果					
主な取組	①埋蔵文化財(遺跡)の発掘調査の実施(発掘調査業務委託料)…1,349千円 ②国指定史跡加茂遺跡などの保存管理の推進(文化財保護用地の除草伐採業務委託料)…3,013千円 ③栄根寺廃寺遺跡を史跡公園として、旧加茂幼稚園を文化財の収蔵場所として活用(土地借上料)…9,281千円				
	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡加茂遺跡を啓発するために加茂遺跡史跡指定20周年記念シンポジウムを開催した。 ・国指定史跡加茂遺跡の保存と管理を進めた。 ・埋蔵文化財(遺跡)について、各種開発に対処して発掘調査を実施した。 ・文化財に親んでもらうため、川西市文化財ボランティアガイドの会との共催で文化財ハイキングを開催した。 ・文化財の普及啓発を市民と協働して推進するために、文化財ボランティア養成講座を開催した。 ・川西市文化財ボランティアガイドの会、加茂小コミュニティ協議会加茂遺跡クラブとの共催で加茂遺跡スタンプラリーを企画、開催した。 				
(1) 発掘調査実施件数	(単位:件)				
	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
遺跡名					
加茂遺跡	1	6	4	4	4
その他	5	15	11	9	13
合計件数	6	21	15	13	17
合計面積(m ²)	49	156	363	162	2,242
(2) 文化財保存啓発事業参加者数	(単位:人)				
	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
事業名					
文化財講座	69	-	172	-	136
文化財ハイキング	32	24	-	-	16
加茂遺跡スタンプラリー	157	173	169	-	208
発掘調査現地説明会	-	-	-	-	-
文化財ボランティア養成講座	52	102	62	-	70
合計	310	299	403	-	430



加茂遺跡史跡指定20周年記念シンポジウム

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施。

<細事業2>	文化財施設管理事業	細事業事業費(千円)	15,043																																																						
(1) 参画と協働の主な手法(実績)	講座・フォーラム	団体等との共催・連携																																																							
(2) R3年度の取組と成果																																																									
主な取組	①文化財資料館：a…10,738千円、b…1,059千円 ②郷土館：a…9,974千円、b…1,833千円、詳細設計委託料…4,455千円 ③歴史民俗資料館：b…8千円 設備保守管理委託料・業務委託料(3施設)…5,050千円																																																								
	※a=会計年度任用職員報酬等、b=光熱水費																																																								
<ul style="list-style-type: none"> 文化財資料館では、市内の遺跡で実施した発掘調査で発見された遺物の整理、収蔵、展示を行い、学校教育との連携として、小学生の団体見学対応及び小学校への出前授業を実施した。加茂遺跡史跡指定20周年記念事業として、関西大学が所蔵する加茂遺跡初の発掘調査成果を取り上げた特別展「摂津加茂遺跡里帰り展」を開催した。 郷土館では、国登録有形文化財である大正時代の建造物(旧平安家住宅・旧平賀家住宅)、寄贈絵画関連施設(ミュージアム・アトリエ平通)などの管理、運営、公開を行うとともに企画展示を開催し、施設活用に努めた。学校教育との連携として、幼稚園児・小学生の団体見学対応を行った。旧平安家住宅の耐震補強詳細設計に着手した。 歴史民俗資料館では、県指定重要有形民俗文化財である江戸時代の古民家2棟(旧下堂家住宅・旧福田家住宅)の管理、公開を行い、小学生の団体見学などに対応した。 																																																									
(3) 文化財施設入館者数 (単位:人)		(4) 文化財施設啓発事業参加者数 (単位:人)																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財資料館</td> <td>3,106</td> <td>3,843</td> <td>3,614</td> <td>1,363</td> <td>2,709</td> </tr> <tr> <td>郷土館</td> <td>9,229</td> <td>7,338</td> <td>7,732</td> <td>1,271</td> <td>4,553</td> </tr> <tr> <td>歴史民俗資料館</td> <td>1,115</td> <td>998</td> <td>1,380</td> <td>859</td> <td>1,289</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13,450</td> <td>12,179</td> <td>12,726</td> <td>3,493</td> <td>8,551</td> </tr> </tbody> </table>		施設名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	文化財資料館	3,106	3,843	3,614	1,363	2,709	郷土館	9,229	7,338	7,732	1,271	4,553	歴史民俗資料館	1,115	998	1,380	859	1,289	合計	13,450	12,179	12,726	3,493	8,551	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財資料館</td> <td>609</td> <td>671</td> <td>1,081</td> <td>86</td> <td>502</td> </tr> <tr> <td>郷土館</td> <td>713</td> <td>714</td> <td>961</td> <td>-</td> <td>467</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,322</td> <td>1,385</td> <td>2,042</td> <td>86</td> <td>876</td> </tr> </tbody> </table>		施設名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	文化財資料館	609	671	1,081	86	502	郷土館	713	714	961	-	467	合計	1,322	1,385	2,042	86	876
施設名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																				
文化財資料館	3,106	3,843	3,614	1,363	2,709																																																				
郷土館	9,229	7,338	7,732	1,271	4,553																																																				
歴史民俗資料館	1,115	998	1,380	859	1,289																																																				
合計	13,450	12,179	12,726	3,493	8,551																																																				
施設名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																				
文化財資料館	609	671	1,081	86	502																																																				
郷土館	713	714	961	-	467																																																				
合計	1,322	1,385	2,042	86	876																																																				
<small>※令和2年3月7日～同年6月1日まで臨時休館(3施設)、令和2年11月26日～同年12月7日及び令和3年1月25日～同年3月15日まで臨時休館(郷土館)、同年4月25日から5月11日まで臨時休館(3施設)</small>																																																									

5. 担当部長によるR3年度事業成果の自己評価及び後期基本計画の総括を含めた今後の方向性

R3年度事業成果の自己評価	有効性	効率性	左記(自己評価)の具体的説明
	大きく向上した。		
	向上した。		
	前年度の水準に留まった。	○	○
	前年度の水準を下回った。		
事業の課題	後期基本計画期間を振り返った上での令和4年度以降の方向性		
<ul style="list-style-type: none"> 文化財施設への新規来館者が少なく、施設のあり方(活用方法)について検討していく必要がある。 旧平安家住宅の耐震補強・修繕を進め、その他の施設も適切に維持管理していくために建物の全体調査を行い、計画的に修繕を実施していく必要がある。 加茂遺跡の保存活用を推進するため、公有化した土地の活用法を検討するとともに、計画的に史跡指定・公有化を進める必要がある。 	<p>【後期基本計画を振り返っての総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> 加茂遺跡の保存活用推進のため、史跡指定地の一部を公有化し、市民と協働して加茂遺跡スタンプラリーなどを実施した。 旧平安家住宅の耐震補強・修繕のための調査や詳細設計などを進めた。 <p>【令和4年度以降の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、若い世代の方々にも文化財の魅力を発信する。 文化財施設の適切な維持管理のため、計画的に修繕を進める。 加茂遺跡文化財保護用地の活用法を検討し、保存活用計画の見直しなどを行い、計画的な史跡指定・公有化を進める。 		

